

SG-Rack

STAGE PIANO MODULE

取扱説明書



KORG

安全上のご注意



注意
感電の恐れあり
キャビネットをあけるな



マークについて

この機器に表示されているマークには、
次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

以下の指示を守ってください



警告



●本製品を使用する前に、以下の指示をよく読んでください。

●電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

●次のような場合には、直ちに電源を切って電源コードなどを取り外し、コルグ営業所、またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。

- 電源コードやプラグが破損したとき
- 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたとき
- 製品が(雨などで)濡れたとき
- 製品に異常や故障が生じたとき

●次のような場所での使用や保存はしないでください。

○温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)

○水気の近く(風呂場、洗面台、濡れた床など)や湿度の高い場所

○ホコリの多い場所

○振動の多い場所



●修理／部品の交換など、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対にしないでください。必ず最寄りのコルグ営業所またはコルグ営業技術課に相談してください。

●電源コードを無理に曲げたり、上に重いものを乗せたりしないでください。電源コードに傷がつき危険です。

●本体上ケースの上に重いものを乗せないでください。本体内部を破損する場合があります。

●本製品をヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせ使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になる場合があります。大音量や不快な程度の音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

●本製品に、異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)や液体(水やジュースなど)を絶対にいれしないでください。



●この機器を分解したり、改造したりしないでください。

注意



●本製品は正常な通気が妨げられることのない所に設置して、使用してください。

●本製品はマイクロコンピュータを使用した機器です。このためラジオやテレビなどを接近して同時にご使用になりますと、それらに雑音が入ることがあります。逆にラジオ、テレビ、その他の電子機器から本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。ラジオ、テレビ、その他の電子機器などからは十分に離してご使用ください。

●他の電気機器の電源コードといっしょのタコ足配線は危険です。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

●スイッチやツマミに必要以上の力を加えますと故障の原因となりますので注意してください。



●外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は絶対にご使用にならないでください。(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)。

●製品をお買い上げいただいた日より一年間は、保証期間となり、修理は無償となりますが、保証書に購入店での手続きがない場合は無効となります。保証書は必ずお求めになった販売店で所定の手続きを行った後、大切に保管してください。

●今後の参照のために、この取扱説明書はお読みになった後も大切に保管してください。



●電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。



●長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

バックアップ・バッテリーについて

本機では電源OFF後にメモリーの内容が消滅するのを防ぐために、バックアップ用バッテリーを装備しています。ディスプレイに“Battery Low”の表示が出たら交換を行う必要がありますので、最寄りの販売店またはコルグ営業技術課にお問い合わせください。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータは外部記憶メディアにセーブしておいてください。

またデータの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

LCD表示について

取扱説明書には、機能や操作の解説と共にLCD画面が記載されています。

記載されている音色名、各種のパラメータ、数値などは表示の一例ですので、仕様や音色プログラム等の変更により、実際のLCD画面と必ずしも一致しない場合があります。ご了承下さい。



目次

はじめに	6
演奏するための準備	6
各部の名称とはたらき	7
フロント・パネル	7
リア・パネル	8
接続	9
基本操作編	10
MIDI機器の設定	10
音を聴く	10
【FX ON/OFF】キー	11
【A4】キー	11
モード	11
エディット	12
こんなことを行いたいときは	13
応用編	14
PROGRAMモード	14
PERFORMANCEモード	14
PROGRAM EDITモード	15
PROGRAM EDITモードへの入り方	15
プログラムのエディットについての注意	15
1. Brightness(ブライトネスの設定)	16
2. Level(レベルの設定)	16
3. Attack(アタック・タイムの設定)	16
4. Decay(ディケイ・タイムの設定)	16
5. Release, Damp Mode (リリース・タイム/ダンパー・モード/ハイ・ノート・ダンブの設定)	16
6. Key Touch(キータッチの設定)	17
7. Effect1 Depth(FX1のエフェクト・バランスの設定)	17
8. Effect2 Depth(FX2のエフェクト・バランスの設定)	17
9. FX1 TYPE(FX1のエフェクトタイプの設定)	17
10. FX1のエフェクトパラメータの設定	17
11. FX2 TYPE(FX2のエフェクトタイプの設定)	18
12. FX2のエフェクトパラメータの設定	18
13. Scale, P.Bend Range(スケール・タイプ/ピッチベンド・レンジの設定)	18
14. Preload(プリロード・データのロード)	19
15. Rename(プログラム・ネームの設定)	19
16. Prog Write(プログラムのライト)	19
PERFORMANCE EDITモード	20
PERFORMANCE EDITモードへの入りかた	20
パフォーマンスのエディットについての注意	20
1. Timbre Select(ティンバーの選択)	21
2. Program(プログラムの選択)	21
3. Timb On/Off(発音の設定)	21
4. Level(レベルの設定)	21

5. Pitch(ピッチの設定)	21
6. Panpot(音の定位の設定)	21
7. Key Zone, Vel Zone(発音範囲の設定)	21
8. MIDIフィルター/エフェクト・ルートの設定	22
9. Velocity Curve(ベロシティ・カーブの設定)	23
10. Timbre Copy(ティンバーの設定のコピー)	23
11. Macro(マクロ)	24
12. Preload(プリロード)	25
13. Rename(パフォーマンス・ネームの設定)	25
14. Perf Write(パフォーマンスのライト)	25
GLOBALモード	26
GLOBALモードへの入り方	26
プログラムのエディットについての注意	26
1. Master Tune(マスター・チューンの設定)	26
2. Transpose(ノート・ナンバーのシフト設定)	26
3. Global Channel(グローバルMIDIチャンネルの設定)	26
4. Velocity Curve(ベロシティ・カーブの設定)	26
5. MIDI Exclusive(エクスクルーシブ・フィルターの設定)	27
6. Prog Mem Protect, Perf Mem Protect (プログラム/パフォーマンス・メモリー・プロテクトの設定)	27
7. Preload(プリロード)	28
8. MIDI Data Dump(MIDIデータ・ダンプの実行)	28
9. Page Memory, Power On Mode(ページ・メモリー/パワーオン・モードの設定)	29
10. System Name(システム・ネームの設定)	29
エフェクト	30
0. No Effect	31
1. Reverb	31
2. Early Reflection	31
3. Stereo Delay	31
4. Stereo Chorus	32
5. Stereo Flanger	32
6. Overdrive	32
7. Stereo Phaser	33
8. Rotary Speaker	33
9. Auto Pan	33
10. Wah	34
11. Flanger-Delay	34
12. Hyper Enhancer(FX1でのみ使用可能)	34
資料	35
MIDIについて	35
故障とお思いになる前に	38
エラー・メッセージ	38
仕様	38
プログラム・ネーム・リスト	39
パフォーマンス・ネーム・リスト	39
パラメータ・リスト	40
MIDIインプリメンテーションチャート	41

はじめに

このたびはSG-Rack ステージ・ピアノ・モジュールをお買い求めいただきましてありがとうございます。

- ・ご使用になる前に、本書のはじめにある「安全上のご注意」「火災・感電・人身障害の危険を防止するには」「注意」「警告」の各項目をよくお読みください。
- ・本書の文章中に出てくる【 】はパネルに表示されている文字を表わします。
また、“ ”はLCDに表示されている文字を表わします。
- ・本書の  マークは、注意事項を示し、 マークは、参照ページを示します。

演奏するための準備


1. 付属品の確認

下記のものが入属していることを確認してください。

- ・ACコード
- ・ラックマウント用ねじ、絶縁ブッシュ、絶縁ワッシャー各4個

2. 本体の設置

本体を操作しやすいように、安定した台やラックに設置してください。

-  机上等に直接置いて使用する場合、本体の上に他のラック又はコンピューター等を積み上げてのご使用はお避けください。

3. モニタースピーカー等の準備

SG-Rackの音色を十分に楽しむために、モニタースピーカー等は、L、R用に2台用意し、それぞれリア・パネルの【L/MONO】と【R】に接続してください。

1台しか用意できない場合は【L/MONO】に接続してください。このとき【R】には何も接続しないでください。


4. MIDI機器(キーボード、シーケンサー等)の用意

SG-Rackをコントロールする機器を用意します。このとき、その機器の取扱説明書も一緒にご用意ください(MIDI関係の設定の変更が必要な場合があります)。

●ヘッドホンを使うときは

ヘッドホンは本体前面左の【PHONES】端子に差ししてください。このとき、リア・パネルの【OUTPUT】からの出力はカットされません。

音量は【VOLUME】つまみで調整してください。

-  ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量のまま長時間使用しないでください。

各部の名称とはたらき

フロント・パネル

① ボリューム・つまみ

【L/MONO】、【R】、【PHONES】から出力される信号の音量を調整します。

② ヘッドホン端子

③ LCD(液晶表示器)

プログラム・ネーム、各種設定画面や、その値等を表示します。

各モードによって表示する内容が異なります。

④ 【+1/YES】、【-1/NO】キー

プログラムや、パフォーマンスの選択および、エディット時に、各種の値等を設定するのに使用します(☞P.12)。

また、LCDに表示される“OK?”に対しYES、NOで答える時にも使用します。

2つのキーを同時に押さえると、そのパラメータを選んだ時の値に戻すことができます(UNDO機能)。

⑤ 【◀】、【▶】(カーソル)キー

LCD画面上のパラメータの設定間の移動に使用します(☞P.12)。

⑥ 【+PAGE】、【-PAGE】キー

ページを選択する時に使用します(☞P.12)。

⑦ 【PERF】キー

PERFORMANCEモードで演奏するときに使用します。この時、キーの上のLEDが点灯します。

⑧ 【PROG】キー

PROGRAMモードで演奏するときに使用します。この時、キーの上のLEDが点灯します。

⑨ 【EDIT】キー

プログラムや、パフォーマンスをエディットするときに使用します。

選ばれているモードのLEDと共に、キーの下のLEDが点灯します。

⑩ 【GLOBAL】キー

GLOBALモードに入って、各種設定を変更するときを使用します。キーの下のLEDが点滅します。

⑪ 【FX ON/OFF】キー

エフェクト1、2を同時にオン/オフさせることができます。(☞P.11)

⑫ MIDI インジケータ

MIDI データの受信時に一瞬LEDが点灯します。

⑬ 【A4】キー

いま選ばれているプログラムや、パフォーマンスの音色がA4の音程で確認できます。

また、MIDI やオーディオ配線のチェック時に使用します。(☞P.11)

⑭ 【BANK】キー

キーを押すたびに、プログラムや、パフォーマンスのバンクがA→B→C→Dと切り替わります。

⑮ 【RESET】キー

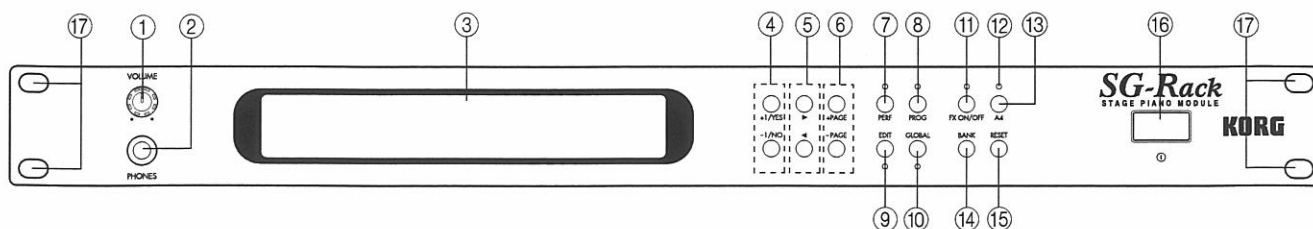
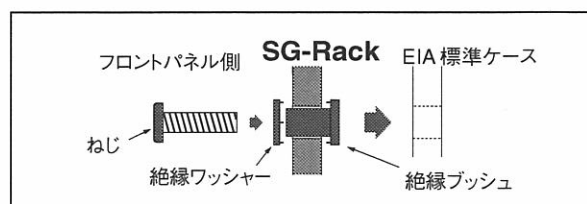
このキーを押すと、それまでに受信した MIDI データによる各動作や状態がリセットされます。

⑯ パワー・スイッチ

電源をオン/オフするときに押します。

⑰ ラック取り付け穴

下図のように付属のねじ、絶縁ワッシャー、絶縁ブッシュでEIAの標準ケースへ取り付けます。



リア・パネル

⑱ 【MIDI】端子

- IN : MIDIデータを受信します。
- OUT : 本体からのMIDIデータを送信します。
- THRU : IN で受信したMIDIデータをそのまま送信します。

⑲ 【OUTPUT】端子

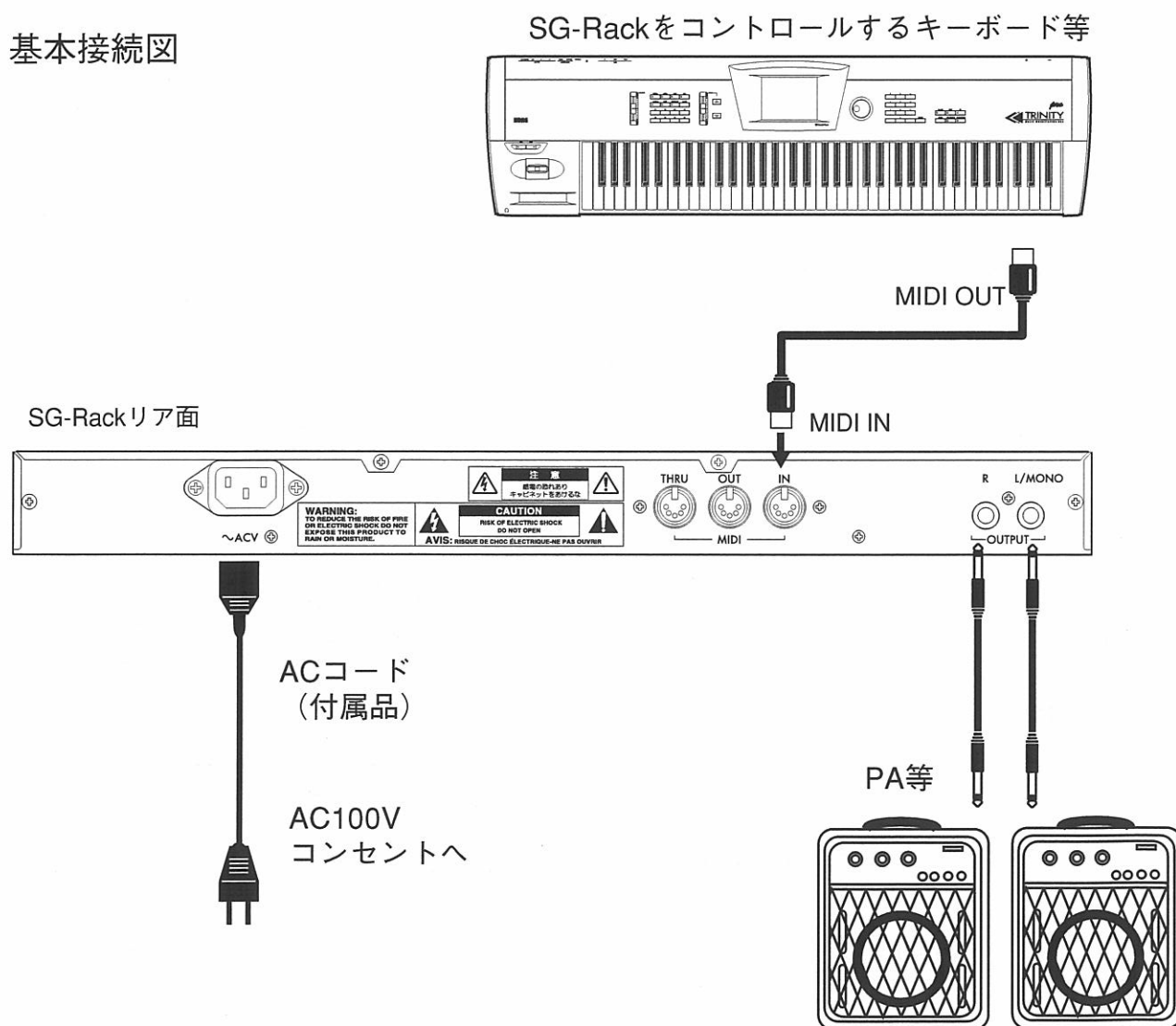
- L/MONO: ステレオ出力時のL側の音声信号を出力します。
モノラル出力時は、こちらだけにプラグを接続します。
- R : ステレオ出力時のR側の音声信号を出力します。
モノラル出力時は、プラグを接続しないでください。



接続

- 1) SG-Rack本体のパワー・スイッチがオフになっていることを確認してください。
その時、接続している機器(アンプ、ミキサー等)の電源がオフになっていることも確認してください。
また、すべての機器のボリュームを下げ切っておいてください。
- 2) SG-Rackをコントロールするための機器(キーボード、シーケンサー等)のMIDI OUTと、SG-RackのMIDI INを接続してください。
- 3) ACコードを本体のインレット・ソケットに取り付けます。もう一方をAC100Vコンセントに差し込みます。必ずAC100Vの電源を使用してください。
- 4) SG-Rack本体のパワー・スイッチをオンにします。
- 5) 接続している機器の電源をオンにしてから、SG-Rackや、その他の機器のボリュームを上げて、適当な音量にしてください。

基本接続図



MIDI機器の設定

MIDI機器を使ってSG-Rackで演奏するときは、あらかじめMIDI機器側のMIDI送信を次のように設定してください。

接続したMIDI機器の設定方法は、その取扱説明書を参照してください。

MIDIチャンネル

SG-RackのMIDIチャンネルは1に設定(出荷時)されていますので、MIDI機器の送信チャンネルは、1に設定してください。

MIDI機器の送信チャンネルを1以外に設定する場合は、SG-RackのグローバルMIDIチャンネルをその送信チャンネルに合わせてください。(P.25)

MIDI受信 データ

SG-Rackは次のMIDI情報を受信します。

- ノートオン/オフ(ノート情報) ----- もっとも基本となる鍵盤オンオフなどの演奏のためのメッセージです。
- プログラム・チェンジ ----- プログラムを切り替えるためのメッセージです。
- コントロール・チェンジ ----- コントローラや演奏状況のメッセージです。
- ピッチ・ベンド ----- ベンダー(ジョイスティック、ホイール、レバー等)によるピッチ変化のためのメッセージです。

そのほかに、アフタータッチやエクスクルーシブ・データも受信します。



MIDI INに送られてくるノート・データはC-1~G9(ノート・ナンバー0~127)ですが、音色によっては、高音域の音がでない場合もあります。

音を聴く

SG-Rackには、1つのプログラムを使うPROGRAMモードと、2つのプログラムを組み合わせたパフォーマンスを使うPERFORMANCEモードの2種類の演奏形態があります。

1. PROGRAMモードの場合は【PROG】キー、PERFORMANCEモードの場合は【PERF】キーを押して、それぞれのLEDを点灯させてください。
LCD表示は右記のようになります。
2. プログラムやパフォーマンスは、【BANK】キーと【+1/YES】、【-1/NO】キーで切り替えます。

プログラムやパフォーマンスは、それぞれバンクA、B、C、Dに16個ずつ、合計64個用意されています

外部MIDI機器からプログラムやパフォーマンスを切り替える時はMIDIメッセージのProgram Changeを送信してください。

なお、SG-RackのプログラムやパフォーマンスのバンクはMIDIメッセージのBank Selectとは関係ありません。

PROGRAMモードの時
プログラム・ナンバー プログラム・ネーム

A01: Concert

PERFORMANCEモードの時
パフォーマンスナンバー パフォーマンス・ネーム

A01: PianoLayer
TA : B03: Chorused

この部分の表示については P.14参照

Program Changeの プログラム・ナンバー	00~15	16~31	32~47	48~63
SG-Rackプログラム/ パフォーマンス・ナンバー	A1~A16	B1~B16	C1~C16	D1~D16

※ 接続しているMIDI機器からの演奏情報を受信しても発音しない場合は、パネルの【A4】キーを押して発音を確認してください。

発音しない場合は、SG-Rackやモニター、アンプの音量が上がっているか、オーディオケーブルが正しく接続されているかどうかを確認してください。

発音する場合は、MIDIケーブルが正しく接続されているか、MIDIチャンネルが一致しているか、を確認してください。

【FX ON/OFF】キー

使用されているエフェクトのオン、オフを切り替えます。

このキーを押すたびにエフェクトが交互にオン(LED点灯)、オフ(LED消灯)します。

通常はオンにしておきます。

ここでのエフェクト・オン/オフの状態はライト(記憶)されません。

プログラムやパフォーマンスを切り替えても、このキーの状態は解除されません。



使用しているエフェクトの種類によっては、エフェクトの一部(EQ Lo, EQ Hi)がオフにならない場合があります。
(☞P.29)

【A4】キー

外部MIDI機器を接続しないままでの音色チェックや、MIDIやオーディオ回線チェックに使用します。

キーを押すとノート・ナンバー 69(A4)、ベロシティ127のNote Onを受信しときと同じように、プログラムやパフォーマンスが発音します。



PERFORMANCEモードのときは、Key Zoneや、Vel Zoneの設定の影響をうけます。

モード

本機には下記の5つのモードがあり、各キーを押してモードを切り替えます。

PROGRAMモード

【PROG】キーを押して、キーの上のLEDを点灯させます。

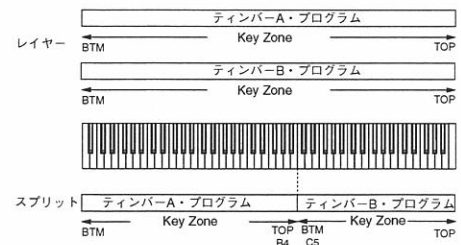
1つのプログラムを使用した演奏を行います(☞P.14)。

PERFORMANCEモード

【PERF】キーを押して、キーの上のLEDを点灯させます。

ティンバーA、Bにプログラムを配置した、レイヤー/スプリット演奏を行います(☞P.14)。

- ・レイヤー 1つのNote Onメッセージを受信すると2つのプログラムが発音します。
- ・スプリット Note Onメッセージのノート・ナンバーによって、2つのうち設定した音域と一致するティンバーのプログラムが発音します。



PROGRAM EDITモード

【PROG】キーを押して、エディットしたいプログラムを選んだあと、【EDIT】キーを押して、キーの下のLEDを点灯させます。

プログラムの音色を修正したり、キー・スケールの設定やプログラム名の変更などを行います(☞P.15)。

PERFORMANCE EDITモード

【PERF】キーを押して、エディットしたいパフォーマンスを選んだあと、【EDIT】キーを押して、キーの下のLEDを点灯させます。

パフォーマンスのティンバーA、Bの設定や、パフォーマンス名の変更などを行います(☞P.20)。

GLOBALモード

【GLOBAL】キーを押して、キーの下のLEDを点滅させます。プログラムやパフォーマンスに共通な設定(グローバルMIDIチャンネル、メモリーのプロテクトなど)を行います。また、全プログラムで共有するベロシティ・カーブの設定もを行います(☞P.26)。

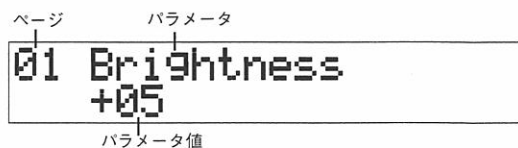
もう一度【GLOBAL】キーを押すと、LEDが消灯し、このモードに入る前のモードに戻ります。

エディット

1. **【+PAGE】**、**【-PAGE】**キーを押してページを選択します。
必要に応じてさらに**【◀】**、**【▶】**キーを使って、目的のパラメータを選びます。
2. **【+1/YES】**、**【-1/NO】**キーで値を変更します。

エディット画面

実際に表示される個々のLCD表示のことを「画面」と呼びます。関連している機能やパラメータはそれぞれまとめてあり、そのまとめた「画面」を集めたものを「ページ」と呼び、LCDの左上にそのページ番号が表示されます。



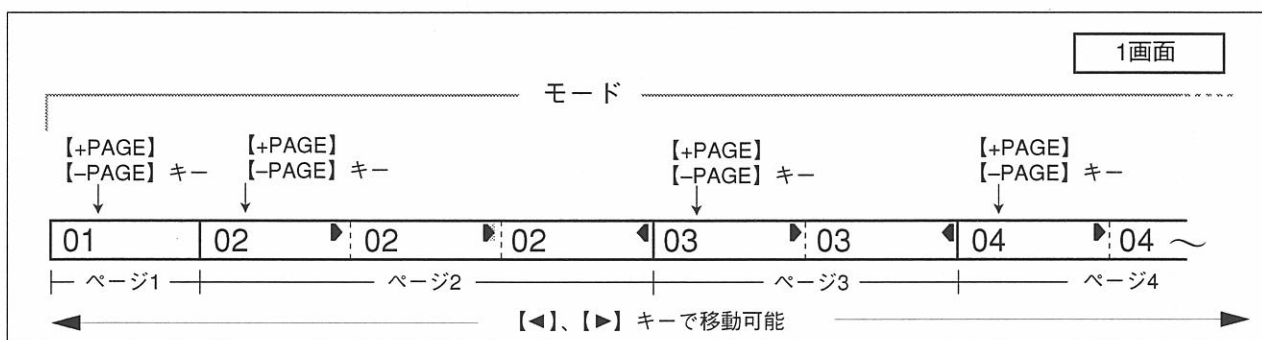
ページの選択

各モードの画面は下図のように構成されています。

【+PAGE】、**【-PAGE】**キーを押すと各ページの先頭の画面が呼び出されます。

同じページ内の右側に別の画面があるときは“▶”が、左側にあるときは“◀”がLCD上段の右端に表示され**【◀】**、**【▶】**キーで移動できます。

【◀】、**【▶】**キーで、モード内のページを越えて移動することもできます。



【+1/YES】、【-1/NO】キー

パラメータの値を1つ変える時に使用します。

- ・キーを押し続けると、値が連続的に変化します。
- ・**【EDIT】**キーを押しながら、それぞれのキーを押すとパラメータ値を10ずつ変えることができます。
- ・画面に表示されるメッセージの“OK?”に対しYES、NOで答える時にも使用します。
- ・ふたつのキーを同時に押さえると、そのパラメータを選んだ時の値に戻すことができます(UNDO機能)。

こんなことをしたいときは

本機の主な機能を簡単に説明します。

他の楽器とチューニングを合わせたいとき

他の楽器と一緒にSG-Rackを演奏するときや、CDやテープに合わせて演奏するときは、GLOBALモードのページ1“Master Tune”で調整してください(☞P.26)。

ベロシティの感度を変えたいとき

SG-Rackは、演奏データのベロシティの強弱で音量や音色を変化させ、表情豊かな演奏を行います。ベロシティに応じた音量／音色変化の仕方を、GLOBALモードのページ4“Velocity Curve”で設定します(☞P.26)。

音域を変えたいとき

演奏の音域をGLOBALモードのページ2“Transpose”で半音単位でシフトします(☞P.26)。

2個のプログラムを組み合わせて使いたいとき

2個のプログラムを重ねて使いたいときや、音域や演奏データのベロシティの強弱で弾き分けたいときは、PERFORMANCE EDITモードで、ティンバーにプログラムを割り当て、キーゾーンやベロシティ・ゾーンを設定します。

プログラムの割り当ては、PERFORMANCE EDITモードのページ1“Timbre Select”、ページ2“Program”で、キーゾーンやベロシティ・ゾーンは、ページ7“Key Zone”“Vel Zone”で設定します(☞P.21)。

プログラムの基本音色をエディットするとき

SG-Rackは、プログラムの音色のエディットが行えます。ただし、エディットは音色を大幅に変更するものではありません。

たとえば、ピアノの音色を明るくしたり、鍵盤を弾いたときの音の立ち上がりを遅くするなどの変更です。

PROGRAMモードでエディットするプログラムを選んだあと、PROGRAM EDITモードのページ1～6で設定します(☞P.16)。

エフェクト効果を変えるとき

SG-Rackは、直列に接続されたエフェクト1とエフェクト2が用意されており、プログラムごとにエフェクトのタイプや、かかり具合などが設定します。

PROGRAMモードでエディットするプログラムを選んだあと、PROGRAM EDITモードのページ7～12で設定します(☞P.17)。

プログラムやパフォーマンスの名前を変えたいとき

プログラムをPROGRAMモードで選び、PROGRAM EDITモードのページ15“Rename”で名前の変更を行います(☞P.19)。

パフォーマンスをPERFORMANCEモードで選び、PERFORMANCE EDITモードのページ13“Rename”で名前の変更を行います(☞P.24)。

プログラム・エディットやパフォーマンス・エディットの結果を保存したいとき

プログラムや、パフォーマンスをエディットしたあと、結果を保存(ライト)しないと、電源を切ったり、他のパフォーマンスやプログラムに移ったときにパラメータ値はエディットする前の状態に戻ってしまいます。

プログラムの保存はPROGRAM EDITモードのページ16“Prog Write”で行います(☞P.19)。

パフォーマンスの保存はPERFORMANCE EDITモードのページ14“Perf Write”で行います(☞P.24)。

このほかの機能については、応用編の各モードの説明をご覧ください。

PROGRAMモード

高品位の音色が64プログラムが用意されています。この音色は同じナンバーならば、バンクを切り替えても同じ系統の音色が選ばれるように配置されています。

プログラムの選び方

1. **【PROG】**キーを押して(LED点灯)PROGRAMモードに入ります。
 2. **【BANK】**キーと**【+1/YES】**、**【-1/NO】**を使ってプログラムを選びます。
- **【FX ON/OFF】**キーでエフェクトのオン/オフを行えます(☞P.11)。

PROGRAMモードでは、LCDの上段にプログラム・ナンバー、プログラム・ネームが表示されます。

なお、プログラムに関する設定はPROGRAM EDITモードおよび、GLOBALモードで行います。

プログラム・ナンバー プログラム・ネーム

A01: Concert

PERFORMANCEモード

プログラム発音用のティンバーA、Bを使用して、レイヤーやスプリット演奏などを行います。64個のパフォーマンスが用意されています。

パフォーマンスの選び方

1. **【PERF】**キーを押して(LED点灯)PERFORMANCEモードに入ります。
2. **【BANK】**キーと**【+1/YES】**、**【-1/NO】**キーを使って選びます。

1つのパフォーマンスは、ティンバーA、Bで構成されます。

- エフェクトは、ティンバーA、BのうちティンバーAで選ばれているプログラムの設定が使用されます。
- ティンバーBの音を、エフェクト1に入力するかどうかを設定できますが、エフェクト2は両方にかかります。(☞P.29)。
- **【FX ON/OFF】**キーでエフェクトのオン/オフを行えます(☞P.11)。

ティンバーA、B共に同一チャンネルのMIDIメッセージの受信します。

PERFORMANCEモードでは、LCDの上段にパフォーマンス・ナンバー、パフォーマンス・ネームを表示します。

LCDの下段にティンバーAまたは、Bのプログラムを表示します。

この表示の切り替えは、**【◀】**、**【▶】**キーで行います。

なお、パフォーマンスに関する設定はPERFORMANCE EDITモード および、GLOBALモードで行います。

パフォーマンス
ナンバー パフォーマンス・ネーム

A01: PianoLayer
TA : B03: Chorused

ティンバーA プログラム
 ナンバー プログラム・ネーム

PROGRAM EDITモード

プログラムの音色の修正や、エフェクトの変更、プログラム名の変更などを行います。

PROGRAM EDITモードへの入り方

- 1) エディットしたいプログラムをPROGRAMモードであらかじめ選んでおきます。
- 2) 【EDIT】キーを押します(LED点灯)。
LCD画面の内容は、右記のようになります。



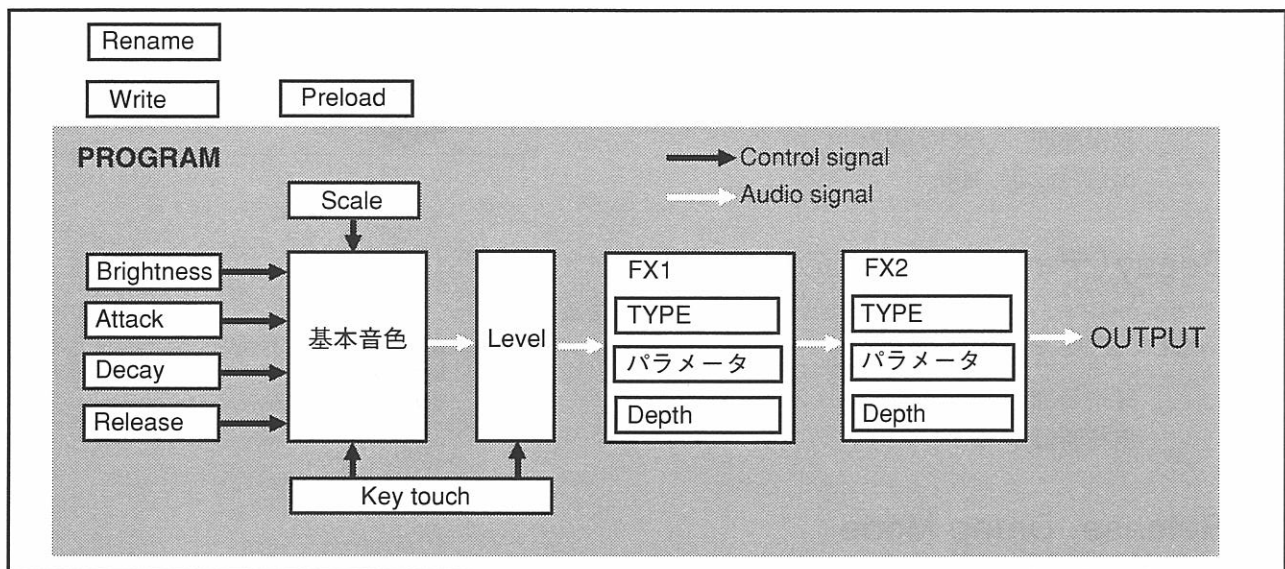
プログラムのエディットについての注意

エディットを終えたプログラムは、PROGRAMモードで別のプログラムに移るか、電源をオフするまで設定が保持されます。

- ▲ GLOBALモードのページ9“Power On Mode”を“MEMORIZE”に設定すると、別のプログラムに切り替えない限り電源をオフにしても、エディットしたプログラムの設定が保持されます(☞P.29)。

エディットしたプログラムを保存しておきたいときは、プログラムをライトしてください(☞P.19)。

PROGRAM EDIT概略図



1. Brightness (ブライツネスの設定)

音色の明るさを設定します。値を-にすると、高周波領域がカットされて、音色が柔らかく暗い感じになります。
+にすると、音色が硬く明るい感じになります。
0でもとの音色に戻ります。

設定範囲 -99～+99
出荷時設定 +00

01 Brightness
+00

2. Level (レベルの設定)

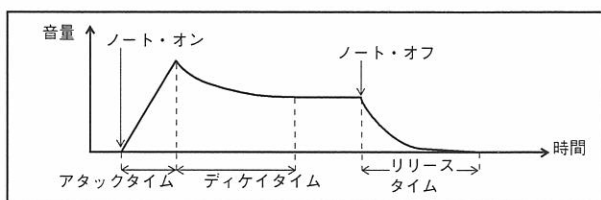
音量の設定を行います。+で大きくなり、-で小さくなります。0でもとの音量に戻ります。

設定範囲 -99～+99
出荷時設定 +00

02 Level
+00



音色によっては、レベルを大きな値に設定すると、和音の演奏時に音が歪む場合があります。このような場合は、レベルを下げてください。



3～5はエンベロープ・タイムの設定です。
-で短く、+で長くなり、0でもとのタイムになります。

3. Attack (アタック・タイムの設定)

ノート・オンを受信してから音が大きくなるまでの時間を設定します。
ストリングス音色などで設定します。

設定範囲 -99～+99
出荷時設定 +00

03 Attack
+00

4. Decay (ディケイ・タイムの設定)

ノート・オンからノート・オフまでの音量などが減衰していく時間を設定します。
ピアノなどで設定します。

設定範囲 -99～+99
出荷時設定 +00

04 Decay
+00

5. Release, Damp Mode

(リリース・タイム/ダンパー・モード/ハイ・ノート・ダンプの設定)

リリース

ノート・オフを受信した後、音量などが減衰していく時間を設定します。

設定範囲 -99～+99
出荷時設定 +00

05 Release
+00

ダンパー・モード

通常は、ピアノやエレピでは“PIANO”にそれ以外の音色では“NORMAL”に設定します。

PIANO リリース(ノート・オフを受信して音が減衰している最中)時にCC#64(値は0以外)を受信すると、減衰の仕方がゆっくりとなります(リダンプ)。CC#64の中間の値(1~79)を使うと、その減衰時間を調整できます。

NORMAL 通常の動作のみで、でリダンプは行いません。

```
05 Damp Mode
   NORMAL Hi: NORMAL
```

ダンパー・モードの設定

ハイ・ノート・ダンプの設定

ハイ・ノート・ダンプ

通常は、ピアノでは“PIANO”にそれ以外の音色では“NORMAL”に設定します。

PIANO A6以上の高音部ではダンパー・メッセージ:CC#64の受信とは関係なく、常にダンパーを踏んだのと同じ動作をします。

NORMAL A6以上の高音部も通常の動作をします。

6. Key Touch(キータッチの設定)

ノート・オンメッセージのペロシティによる音量や、音色の変化のしかたを設定します。+に設定すると、ペロシティの強弱に対する音量や音色の変化が大きくなります。-に設定すると、ペロシティの強弱に関係なく、一定の音量、音色になっていきます。

```
06 Key Touch
   +00
```

設定範囲 -99~+99

出荷時設定 +00

7. Effect1 Depth(FX1のエフェクト・バランスの設定)

原音とエフェクト1のかかっている音とのバランスを設定します。“FX”でエフェクトのみになります。

ただし、FX1に何も選ばれてないときは、表示に“NO EFFECT”と表示されます。

```
07 Effect1 Depth
   80:20
```

設定範囲 DRY, 99:01~01:99, FX



FX1のエフェクトタイプに“Hyper Enhancer”を選んだときは、“DRY”か“FX”しか設定できません。

8. Effect2 Depth(FX2のエフェクト・バランスの設定)

原音とエフェクト2のかかっている音とのバランスを設定します。“FX”でエフェクトのみになります。

ただし、FX2に何も選ばれてないときは、表示に“NO EFFECT”と表示されます。

```
08 Effect2 Depth
   No Effect
```

※FX2にNo Effectを選んだ場合の表示

設定範囲 DRY, 99:01~01:99, FX

9. FX1 TYPE(FX1のエフェクトタイプの設定)

FX1のエフェクトタイプを設定します。

タイプはReverb, Early Reflection, Stereo Delay, Stereo Chorus, Stereo Flanger, Overdrive, Stereo Phaser, Rotary Speaker, Auto Pan, Wah, Flanger-Delay, Hyper Enhancerの12種類です(『エフェクト』参照P.30)。

```
09 FX1 TYPE
   03: Stereo Delay
```

10. FX1のエフェクトパラメータの設定

FX1 TYPEで選んだエフェクトのパラメータを設定します。パラメータの種類や設定できる範囲はエフェクトタイプによって異なります(『エフェクト』参照P.30)。

ただし、FX1に“NO EFFECT”を選んでいるときは、パラメータは表示されません。

```
10 Stereo Delay
   D.Time L480 R290
```

11. FX2 TYPE (FX2のエフェクトタイプの設定)

FX2のエフェクトタイプを設定します。タイプはFX1で選べる種類から Hyper Enhancerを除いた11種類です (『エフェクト』参照 P.30)。

11 FX2 TYPE
00:No Effect

※FX2にNo Effectを選んだ場合の表示

12. FX2のエフェクトパラメータの設定

FX2 TYPEで選んだエフェクトのパラメータを設定します。パラメータの種類や設定できる範囲はエフェクトタイプによって異なります (『エフェクト』参照 P.30)。

12 No Effect

※FX2にNo Effectを選んだ場合の表示

ただし、FX2に“NO EFFECT”を選んでいるときは、パラメータは表示されません。

13. Scale, P.Bend Range (スケール・タイプ/ピッチベンド・レンジの設定)

スケール

スケール・タイプ (音律) とスケール・キー (選んだ音律の主調和音) を設定します。

7種類の音律を選ぶことができます。

スケール・キーの設定範囲はC~Bです。

Equal Temp (平均律)

鍵盤楽器に最も幅広く用いられている通常の音律です。
転調が容易に行えます。

13 Scale
Equal Temp C

Pure Major (純正律長音階)

長音階の和音 (3度、5度など) が完全に調和する音律です。

ただし、他の調では調和しないので、スケール・キー設定で主調音を選んでください。

Pure Minor (純正律短音階)

短音階の和音 (3度、5度など) が完全に調和する音律です。

スケール・キー設定で主調音を選んでください。

Pythagorean (ピタゴラス音階)

メロディの演奏に効果的な古代ギリシャ時代の音律です。

スケール・キー設定で主調音を選んでください。

Werkmeister (ヴェルクマイスターIII)

後期バロック時代に使用された平均律的な音律です。

スケール・キー設定で主調音を選んでください。

Kirnberger (キルンベルガーIII)

主にハーブシコードの調律に用いられている18世紀に考案された音律です。

スケール・キー設定で主調音を選んでください。

Strech (ストレッチ)

ピアノで使用されるスケールで、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高く調整された音律です。

スケール・キーの設定はありません。

ピッチベンド・レンジ

ピッチベンドを行う範囲を設定します。MIDIメッセージの Pitch Bendを受信すると、ベースやストリングス等のプログラムは、そのピッチ (音程) が変化します。

ここではその変化の範囲を半音単位、±1オクターブの範囲内で設定します。

ここで設定した範囲外の Pitch Bendデータは無視します。

設定範囲 -12~+12

13 P.Bend Range
+00



プログラムまたは、ノート・ナンバーによってはピッチが+1オクターブまで上がりきらないものがあります。

14. Preload(プリロード・データのロード)

使用中のプログラム・ナンバーにプリロード・データ(出荷時の設定)をロードします。
これによって、ページ1~13、15の設定はそれぞれ出荷時の値にもどります。

プログラム・ナンバーを選択してから、“OK?”に移動し【+I/YES】キーを押すと、確認のため“Are You Sure OK?”と表示されます。
【+I/YES】キーを押すと、“Completed”と表示されプリロード・データのロードが終了します。

```
14 Preload
A01                                OK?
```

選択範囲 A01~D16

この画面に入ったときは、ロード元として、現在発音している音色のもとになったプログラムのナンバーが表示されます。たとえば、A01のプログラムをエディットしてA05へライトした後、A05を選んでこの画面に入ると、自動的にロード元としてA01が表示されます。

そのままロードを行えば、A01の音の出荷時の音に戻りますが、別のナンバーを選べば、選んだナンバーの出荷時の音に戻ります。

 ライトを行わないで他のプログラムを選んだり、電源を切るとロードした出荷時の設定は消えてしまいます。

15. Rename(プログラム・ネームの設定)

プログラム・ネームの変更を行います。ネームは10文字まで使えます。

【◀】、【▶】キーで文字間を移動して、その位置の文字を【+I/YES】、【-I/NO】キーで変えます。

【EDIT】キーと【◀】キーを同時に押すと、今選んでいる文字が削除されます。

【EDIT】キーと【▶】キーを同時に押すと、今選んでいる位置に文字(最後に削除した文字)が挿入されます。

設定できる文字

```
!"#$%&'()*+,-./0123456789
:;<=>?@ABCDEFGHIJKLMNOPQRS
TUVWXYZ[\]^_`abcdefg hijklm
nopqrstuvwxy z{|}~`
```

```
15 Rename
Concert
```

16. Prog Write(プログラムのライト)

エディットを行ったプログラムのページ1~13、15の設定を、指定したプログラム・ナンバーにライト(内部メモリーへの記憶)します。

ライト先のプログラム・ナンバーを選択してから、“OK?”に移動し


【+I/YES】キーを押すと、確認のため“Are You Sure OK?”と表示されます。

【+I/YES】キーを押すと、“Completed”と表示されライトが終了します。

選択範囲 A01~D16

```
16 Prog Write
Write→A02                        OK?
```

なお、ライトを行う前に、GLOBALモードのページ6“Prog Mem Protect”を“OFF”にしてください(☞P.27)。

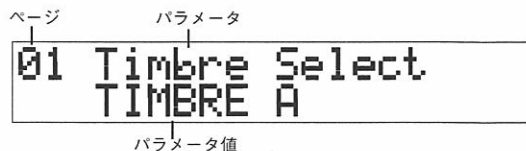
 ライトをすると、ライト先にあったプログラムの設定は消えてしまいます。

PERFORMANCE EDITモード

パフォーマンスのティンバーの設定(プログラム・ナンバーやキー・ゾーンなど)や、各フィルターの設定、パフォーマンス・ネームの変更などができます。

PERFORMANCE EDITモードへの入りかた

- 1) エディットしたいパフォーマンスをPERFORMANCEモードであらかじめ選びます。
- 2) 【EDIT】キーを押します(LED点灯)。
LCD画面は、右記の表示になります。



パフォーマンスのエディットについての注意

エディットを終えたパフォーマンスは、PERFORMANCEモードで別のパフォーマンスに移るか、電源をオフするまで設定が保持されます。

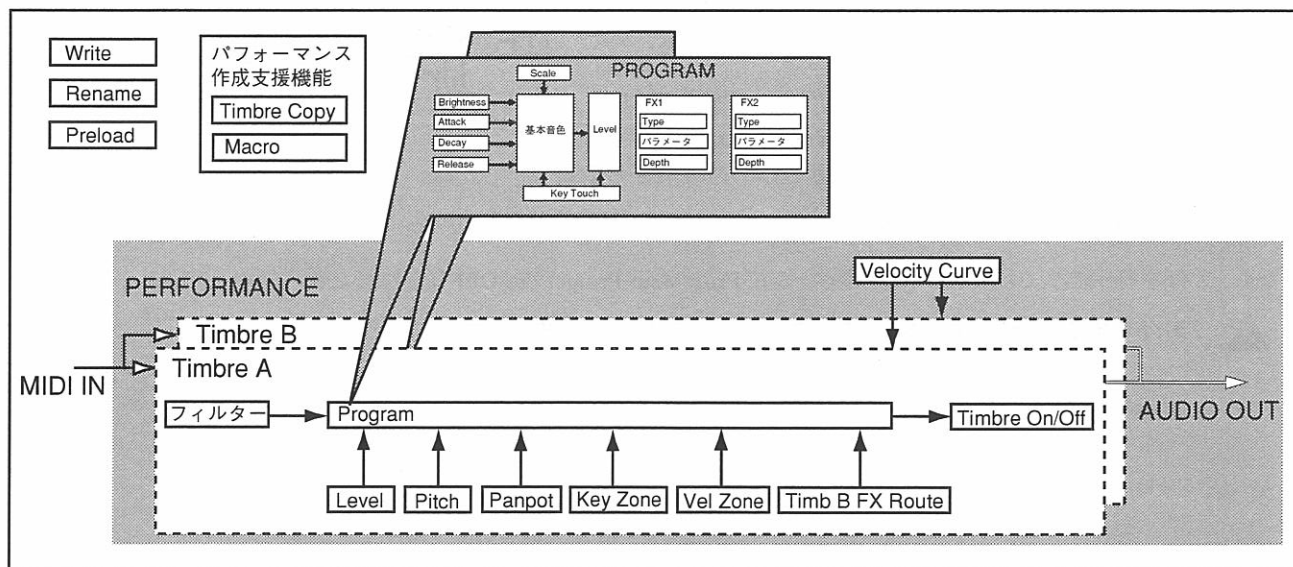
GLOBALモードのページ9“Power On Mode”を“MEMORIZE”に設定すると、別のパフォーマンスに切り替えない限り電源をオフにしても、エディットしたパフォーマンスの設定が保持されます(☞P.29)。

エディットしたパフォーマンスを保存しておきたいときは、パフォーマンスをライトしてください(☞P.23)。

パフォーマンスでは各ティンバーのプログラムをプログラムそのものではなく、プログラム・ナンバーで記憶します。

パフォーマンスで使用しているプログラムをエディットしたり、異なるプログラムと入れ替えた場合、パフォーマンスの音色も変化します。

パフォーマンス概略図



1. Timbre Select (ティンバーの選択)

ページ2~8ではティンバーA、B個別のパラメータを設定します。
エディットの対象となるティンバーAまたは、Bを選びます。
また、ページ1~8にいるときに、【EDIT】キーを押しながら、【+PAGE】または【-PAGE】キーを押すことで、ティンバーを切り替えることもできます。

選択範囲 TIMBRE A、B

```
01 Timbre Select
   TIMBRE A
```

2. Program (プログラムの選択)

プログラムを選びます。
プログラムの選択には、【BANK】キーは使えません。

選択範囲 A1~D16

ティンバーの表示 (ページ2~8共通)

```
02 TA Program
   A01:Concert
```

3. Timb On/Off (発音の設定)

プログラムが発音する(ON)、しない(OFF)を設定します。

設定範囲 OFF, ON

```
03 TA Timb On/Off
   On
```

4. Level (レベルの設定)

出力レベルを設定します。

設定範囲 0~127

```
04 TA Level
   127
```

5. Pitch (ピッチの設定)

ピッチを、ノート・ナンバーのシフト量 (Trans)、および、セント単位 (Tune) で設定します。

設定範囲 Trans -12~+12 (-1Oct.~+1Oct.)
Tune -50~+50 (-50cent~+50cent)

```
05 TA Pitch
   Trans=+00 Tune=+00
```

6. Panpot (音の定位の設定)

音の定位を設定します。ステレオのプログラムは、“L”~“R”のどれかに設定するとモノラルになってしまうので、“PROGRAM”に設定してください。

設定範囲 L, L1~L63, CNT, R65~R126, R
PROGRAM

```
06 TA Panpot
   PROGRAM
```

“PROGRAM”を選ぶと、選ばれているプログラムでの定位設定で出力されます。

7. Key Zone, Vel Zone (発音範囲の設定)

スプリットや、ベロシティ・ゾーン用に発音範囲を設定します。

スプリット・ゾーン

設定範囲 Key Zone Bottom C-1~G9
Key Zone Top C-1~G9

BottomとTopに挟まれた音域が発音します。

```
07 TA Key Zone
   BTM=C-1 TOP=G9
```

ベロシティ・ゾーン

設定範囲 Vel Zone Bottom 1~127
Vel Zone Top 1~127

BottomとTopに挟まれたベロシティ(弾く強さ)域が発音します。

```
07 TA Vel Zone
   BTM=001 TOP=127
```



1つのティンバーで、Bottom値より小さい値をTop値に設定できません。
また、Top値より大きい値をBottom値に設定できません。

8. MIDIフィルター/エフェクト・ルートの設定

ダンパー/ソステヌート

MIDIメッセージによるダンパー (CC#64:Hold)/ソステヌート (CC#66:Sostenuto) をかける“E” / かけない“D”を設定します。

```
08 TA Damp/Sost
E D D D D D D E
```

設定状態

ピッチベンド

MIDIメッセージによるピッチベンド (Pitch Bend) をかける“E” / かけない“D”を設定します。

```
08 TA Pitch Bend
E D D D D D D E
```

設定状態

モジュレーション

MIDIメッセージによるモジュレーション (CC#01:Mod Wheel) をかける“E” / かけない“D”を設定します。

```
08 TA Mod Wheel
E D D D D D D E
```

設定状態

ボリューム

MIDIメッセージによるボリューム (CC#07:Volume) を受ける“E” / 受けない“D”を設定します。

```
08 TA Volume
E D D D D D D E
```

設定状態

エクスプレッション

MIDIメッセージによるエクスプレッション (CC#11:Expression) を受ける“E” / 受けない“D”を設定します。

```
08 TA Expression
E D D D D D D E
```

設定状態

アフタータッチ

MIDIメッセージによるアフタータッチ (After Touch) をかける“E” / かけない“D”を設定します。

```
08 TA AfterTouch
E D D D D D D E
```

設定状態

パンポット

MIDIメッセージによるパンポット (CC#10:Panpot) を受ける“E” / 受けない“D”を設定します。

```
08 TA Panpot
E D D D D D D E
```

設定状態

トーンキャラクタ

MIDIメッセージによる音色変化 (CC#73:Attack Time, CC#74:Brightness, CC#75:Decay Time) を受ける“E” / 受けない“D”を設定します。

```
08 TA Tone Chara
E D D D D D D E
```

設定状態

ティンバー B エフェクト・ルート

ティンバーBからの信号をエフェクト1に通す/通さない (P.30) を設定します。

```
08 TA TimbA--+FX1--
TimbB-^
```

9. Velocity Curve (ベロシティ・カーブの設定)

受信したMIDI Note Onメッセージのベロシティ(打鍵の強さ)値による音量や、音色の変化の具合を設定します。

ベロシティ・カーブはベロシティ値=1“p”と、ベロシティ値=127“f”のときの効果の大きさと、それらを結ぶ線の形“Fig”の設定で決まります。“f”の設定を150にすると、ベロシティがそれほど強く弾かないMIDI Note Onで、最強打鍵とみなして発音します。

```
09 Velocity Curve
Fig:2
```

```
09 Velocity Curve
P:001 f:127
```

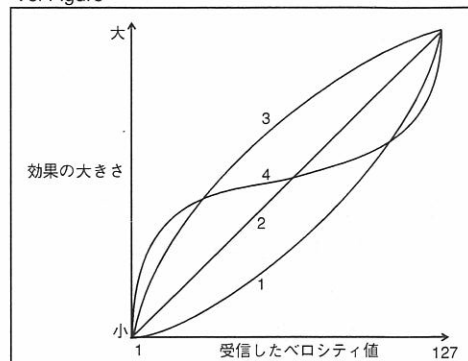
Vel Figure

- 1: 中打鍵のベロシティ値による効果は小さい。
- 2: 標準的なカーブ
- 3: 中打鍵のベロシティ値で大きな効果がかかる
- 4: 中打鍵域のベロシティ値による変化が小さく、ほぼ一定の効果がかかる

GLOBAL: GLOBALモードの設定値を使用する。

設定範囲 1~4, GLOBAL

Vel Figure



Velocity(p)、Velocity(f)

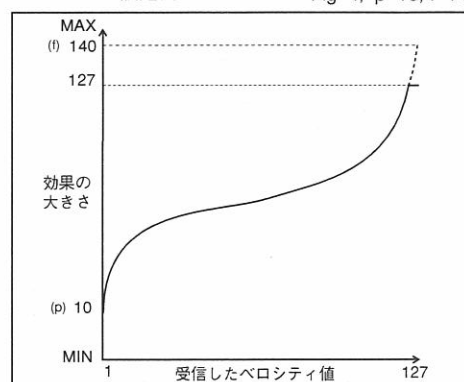
設定範囲 (p)1~127, (f)1~150



Vel Figureで“GLOBAL”を選んだ場合Velocity(p)、Velocity(f)の値はGLOBALモードの設定値を使います。

Vel Curveの設定例

Fig=4, p=10, f=140



10. Timbre Copy (ティンバーの設定のコピー)

ティンバーの設定 (ページ2~8)を他からティンバーにコピーします。

コピー元のパフォーマンス、ティンバー、コピー先のティンバーを選択してから、“OK?”に移動し【+1/YES】キーを押すと、確認のため“Are You Sure OK?”と表示されます。

【+1/YES】キーを押すと、“Completed”と表示されコピーが終了します。

```
10 Timbre Copy
A01 TA → TB OK?
```

コピー元 パフォーマンス
コピー元 ティンバー
コピー先 ティンバー

選択範囲	コピー元	パフォーマンス	A01~D16
		ティンバー	TA, TB
	コピー先	ティンバー	TA, TB

コピー元のパフォーマンスを選ぶことはできますが、コピー先は、今エディットを行っているパフォーマンスになります。



ティンバーA→Bのとき、ティンバーB エフェクト・ルート は、FX1を通る設定になります。

ティンバーB→Aのとき、ティンバーBがFX1をパスしていても、Aにコピーされた方はFX1を通るようになります。

11. Macro (マクロ)

パフォーマンスを新しく作るときに、代表的なパフォーマンスを早く、簡単に設定するためのパフォーマンス作成支援機能です。

指定したティンバーをSG-Rackで用意されているタイプ(使用頻度の高いティンバーの組み合わせ)に設定します。



マクロ設定を行うティンバーを選択してから、マクロ設定のタイプを選びます。

“OK?”に移動し【+1/YES】キーを押すと、確認のため“Are You Sure OK?”と表示されます。

【+1/YES】キーを押すと、“Completed”と表示されマクロ設定が行われます。

選択範囲	指定ティンバー	A, B, AB, BA
	マクロ設定のタイプ	LAYER, SPLIT, VEL SW, GM, RESET

指定ティンバー

A : ティンバーAにマクロ設定を行います。ティンバーBは前の設定のままです。

B : ティンバーBにマクロ設定を行います。ティンバーAは前の設定のままです。

AB : SPLITやVEL SWでの低音側や弱音域がティンバーAになります。

BA : SPLITやVEL SWでの低音側や弱音域がティンバーBになります。

マクロ設定のタイプ

LAYER : 指定ティンバーのKey Zone/Vel Zoneの設定を全音域/全打鍵域にします。

SPLIT : Key Zoneを、C-1~B3, C4~G9(指定ティンバーが“AB”または、“BA”の場合)に分け、ティンバーに割り当てます(指定ティンバーが“A”または、“B”の場合はLAYERと同じになります)。

VEL SW : Vel Zoneを、1~63, 64~127(指定ティンバーがABまたは、BAの場合)に分け、ティンバーに割り当てます(指定ティンバーがAまたは、Bの場合はLAYERと同じになります)。

GM : ティンバーをGM用に初期化します。

RESET : ティンバーを初期化します。

マクロ設定一覧表

—: 実行する前の状態を保持

Divide: 領域をティンバー数で分割

	LAYER	SPLIT	VEL SW	GM	RESET
Program	—	—	—	A01	A01
Timb On/Off	ON	ON	ON	ON	ON
Level	—	—	—	100	127
Pitch Trans	—	—	—	00	00
Pitch Tune	—	—	—	00	00
Panpot	—	—	—	CNT	CNT
Key Zone BTM	C-1	Divide	C-1	C-1	C-1
Key Zone TOP	G9	Divide	G9	G9	G9
Vel Zone BTM	1	1	Divide	1	1
Vel Zone TOP	127	127	Divide	127	127
Damp/Sost	—	—	—	E	E
Pitch Bend	—	—	—	E	E
Mod Wheel	—	—	—	E	E
Volume	—	—	—	E	E
Expression	—	—	—	E	E
AfterTouch	—	—	—	E	E
Panpot	—	—	—	E	E
Tone Chara	—	—	—	E	E
Timbre B FX	—	—	—	USE	USE

12. Preload(プリロード)

使用中のパフォーマンスにプリロード・データ(出荷時の設定)をロードします。

これによって、ページ2~9、13の設定はそれぞれ出荷時の値に戻ります。

ロード元のパフォーマンスを選択してから、“OK?”に移動し【+1/YES】キーを押すと、確認のため“Are You Sure OK?”と表示されます。

【+1/YES】キーを押すと、“Completed”と表示されロードが終了します。

```
12 Preload
   A01                OK?
```

選択範囲 A01~D16

この画面に入ったときは、ロード元として、現在使用しているパフォーマンスナンバーが表示されます。

 ライトを行わないで他のプログラムを選んだり、電源を切るとロードした出荷時の設定は消えてしまいます。

13. Rename(パフォーマンス・ネームの設定)

パフォーマンス・ネームの変更を行います。ネームは10文字まで使えます。

【◀】、【▶】キーで文字間を移動して、その位置の文字を【+1/YES】、【-1/YES】キーで変えます。

【EDIT】キーと【◀】キーを同時に押すと、今選んでいる文字が削除されます。

【EDIT】キーと【▶】キーを同時に押すと、今選んでいる位置に文字(最後に削除した文字)が挿入されます。

設定できる文字

```
!"#$%&'()*+,-./0123456789
:;<=>?@ABCDEFGHIJKLMNOPS
TUVWXYZ[^\_`abcdefghijklmnop
nopqrstuvwxyz{|}~+←
```

```
13 Rename
   HyperPiano
```

14. Perf Write(パフォーマンスのライト)

エディット等を行ったパフォーマンスのページ2~9、13の設定を、指定したパフォーマンス・ナンバーにライト(内部メモリーへの記憶)します。

```
14 Perf Write
   Write→A02        OK?
```


ライト先のパフォーマンス・ナンバーを選択してから、“OK?”に移動し

【+1/YES】キーを押すと、確認のため“Are You Sure OK?”と表示されます。

【+1/YES】キーを押すと、“Completed”と表示されライトが終了します。

選択範囲 A01~D16

なお、ライトを行う前に、GLOBALモードのページ6“Perf Mem Protect”を“OFF”にしてください(☞P.27)。

 ライトをすると、ライト先にあったパフォーマンスの設定は消えてしまいます。

GLOBALモード

プログラムやパフォーマンスに共通な設定(グローバルMIDIチャンネル、メモリーのプロテクトなど)を行います。また、全プログラムに共有するベロシティ・カーブの設定も行います。

GLOBALモードへの入り方

どのモードにいるときも、【GLOBAL】キーを押す(LED点滅)と入れます。

再び、【GLOBAL】キーを押す(LED消灯)と、元のモードに戻ります。

また、GLOBALモードから、【PROG】キーや、【PERF】キーを押すと、直接PROGRAMモードや、PERFORMANCEモードに移ります。

 設定はエディットした時点で記憶されます。ライト作業は必要ありません。

1. Master Tune (マスター・チューンの設定)

プログラムやパフォーマンスのチューニングをセント単位で設定します。

設定に対応するノート・ナンバー69(A4)の周波数が同時に表示されます。

MIDIのRPN Fine Tuneで、ここの設定を変えることができます。

設定範囲 -50~+50(-50cent~+50cent)

出荷時設定 +00

```
01 Master Tune
Tune+00: 440.00Hz
```

チューニング値(セント) A4の周波数(Hz)

2. Transpose (ノート・ナンバーのシフト設定)

SG-Rackが受信したノート・データの、ノート・ナンバーのシフト量を設定します。

設定範囲 -12~+12(-1Oct~+1Oct)

出荷時設定 +00

```
02 Transpose
+00
```

3. Global Channel (グローバルMIDIチャンネルの設定)

SG-Rackが演奏情報を受信するときや、システム・エクスクルーシブ・メッセージを送受信するときに使われるMIDIチャンネルを設定します。

設定範囲 1~16

出荷時設定 1

```
03 Global Channel
1
```

4. Velocity Curve (ベロシティ・カーブの設定)

受信したMIDI Note Onメッセージのベロシティ(打鍵の強さ)値による音量や、音色の変化の具合を設定します。

ベロシティ・カーブはベロシティ値=1“p”と、ベロシティ値=127“f”のときの効果の大きさと、それらを結ぶ線の形“Fig”の設定で決まります。“f”の設定を150にすると、ベロシティがそれほど強く弾かないMIDI Note Onで、最強打鍵とみなして発音します。

```
04 Velocity Curve
Fig:2
```

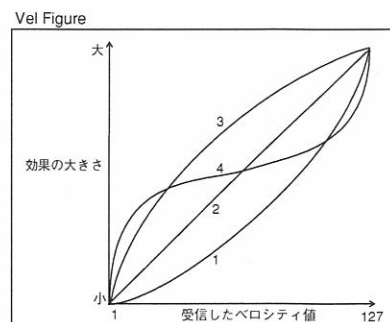
```
04 Velocity Curve
p:001 f:127
```

Vel Figure

- 1: 中打鍵のベロシティ値による効果は小さい。
- 2: 標準的なカーブ
- 3: 中打鍵のベロシティ値で大きな効果がかかる
- 4: 中打鍵域のベロシティ値による変化が小さく、ほぼ一定の効果がかかる

設定範囲 1~4

出荷時設定 2

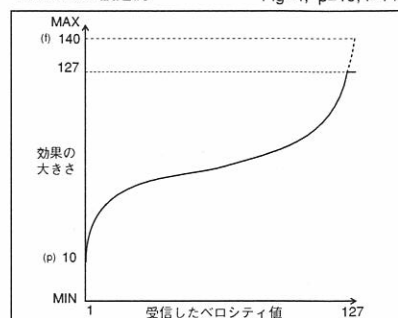


Velocity(p), Velocity(f)

設定範囲 (p)1~127, (f) 1~150

出荷時設定 (p)001, (f)127

Vel Curveの設定例 Fig=4, p=10, f=140



5. MIDI Exclusive (エクスクルーシブ・フィルターの設定)

MIDI のシステム・エクスクルーシブ・データを受信するか、しないかを設定します。

“DIS”にすると、エクスクルーシブ・データを受信しません。

ユニバーサル・システム・エクスクルーシブ・データ (Master Volume) については、この設定とは関係無く受信します。

ただし、ページ8. MIDI Data Dumpにいるときは、この設定にかかわらず送受信します。

エクスクルーシブ・データの受信時は、LCD下段に“now receiving...”と表示されます。

通常は“DIS”にしておきますが、コンピューターなど外部機器でエディットするときは“ENA”に設定します。

設定範囲 DIS, ENA

出荷時設定 DIS

```
05 MIDI Exclusive
DIS
```

6. Prog Mem Protect, Perf Mem Protect

(プログラム/パフォーマンス・メモリー・プロテクトの設定)

プログラム・メモリー・プロテクト

プログラム・メモリーへの書き込みに対してプロテクトをかけることができます。

“ON”に設定すると、プログラム・バンクA、B、C、Dのすべてのメモリーへの書き込みが禁止されます。

設定範囲 OFF, ON

出荷時設定 ON

```
06 Prog Mem Protect
ON
```

パフォーマンス・メモリー・プロテクト

パフォーマンス・メモリーへの書き込みに対してプロテクトをかけることができます。

“ON”に設定すると、パフォーマンス・バンクA、B、C、Dのすべてのメモリーへの書き込みが禁止されます。

設定範囲 OFF, ON

出荷時設定 ON

```
06 Perf Mem Protect
ON
```



ライトするときや、ダンプデータを受信するとき、プリロード・データをロードするとき以外は“ON”に設定しておいてください。

7. Preload(プリロード)

モードごとに、プリロード・データ(出荷時設定)をロードします。

“ALL PROG”は、A01～D16のプログラムの設定、“ALL PERF”は、A01～D16のパフォーマンスの設定、“GLOBAL”はパラメータ1～6、9、10の設定、“ALL”はグローバル、プログラム、パフォーマンスの設定を出荷時の設定に戻します。なお、ALL PROG, ALL PERF, ALLのロードを行うときは、ロード前に対象のメモリー・プロテクトを“OFF”にしておいてください。(P.27)

ロード項目を選択してから、“OK?”に移動し【+1/YES】キーを押すと、確認のため“Are You Sure OK?”と表示されます。【+1/YES】キーを押すと、“Completed”と表示されプリロードが終了します。

選択範囲 ALL PROG, ALL PERF, GLOBAL, ALL



8. MIDI Data Dump(MIDIデータ・ダンプの実行)

SG-Rackのシステム・エクスクルーシブ・データ(プログラムやグローバルの設定)をMIDI OUTに接続した外部のMIDIデータ・ファイラーやコンピューターへ送信します。

データの送信

- 1) MIDIダンプ・データを受信可能な外部のMIDI機器(もう1台のSG-Rackや、エディターを起動させているパソコン等)のMIDI INと本機のMIDI OUTを接続してください。
- 2) 外部MIDI機器と本機のグローバルMIDIチャンネルを合わせてください。ただし、データ・ファイラーへ送信するときは通常MIDIチャンネルを合わせる必要はありません。
- 3) ダンプしたいデータを選択してから、“OK?”に移動し【+1/YES】スイッチを押してダンプを実行します。ダンプ中は“Processing...”と表示され、終了すると、“Completed”と表示されます。

ダンプタイプ	送信データ内容	サイズ(バイト)	送信時間(秒)
ALL PROG	A1～D16の全プログラムの設定	3665バイト	約1秒
ALL PERF	A1～D16の全パフォーマンスの設定	17854バイト	約6秒
GLOBAL	グローバルデータの一部	118バイト	約0.1秒
ALL	ALL PROG、ALL PERF、GLOBAL	21637バイト	約7秒

データ・ダンプの実行中は、本体のキーに触れないでください。

このページにいるときは、ページ5“MIDI Exclusive”の設定が“DIS”でも、システム・エクスクルーシブ・データを送受信します。

選択範囲 ALL PROG, ALL PERF, GLOBAL, ALL



※ “ALL” の時は “GLOBAL”、“ALL PERF”、“ALL PROG” の各ダンプデータをこの順でメッセージを送信します。

※ ダンプデータの詳細は《SG-Rack MIDI IMPLEMENTATION》に記載しています。

MIDI IMPLEMENTATIONの配布についてはコルグ・インフォメーションへお問い合わせください。

9. Page Memory, Power On Mode

(ページ・メモリー/パワーオン・モードの設定)

ページ・メモリー

“ON”に設定すると、モードを替えたとき、以前そのモードで最後に選ばれていたページ(パラメータ)が選ばれます。
 “OFF”に設定すると、モードを替えたとき、毎回そのモードの先頭のページが選ばれます。

設定範囲 OFF, ON
 出荷時設定 OFF

```
09 Page Memory
OFF
```

パワーオン・モード

“RESET”に設定すると、電源オン時、PROGRAM モードの、A01 のプログラムで立ち上がります。
 “MEMORIZE”に設定すると、電源オン時、オフにする直前の状態(モード、プログラム・ナンバー、パフォーマンス・ナンバー等)で立ち上がります。

設定範囲 RESET, MEMORIZE
 出荷時設定 RESET

```
09 Power On Mode
RESET
```

10. System Name(システム・ネームの設定)

電源オン時に表示されるシステムのネームの変更を行います。ネームは10文字まで使えます。
 【◀】、【▶】キーで文字間を移動して、その位置の文字を【+1/YES】、【-1/NO】キーで変えます。
 【EDIT】キーと【◀】キーを同時に押すと、今選んでいる文字が削除されます。
 【EDIT】キーと【▶】キーを同時に押すと、今選んでいる位置に文字(最後に削除した文字)が挿入されます。

設定できる文字

```
!"#$%&'()*+,-./0123456789
:;<=>?@ABCDEFGHIJKLMNOPS
TUVWXYZ[\]^_`abcdefghijklmnop
nopqrstuvwxyz{|}~+*
```

```
10 System Name
KORG Inc.
```

エフェクト

本機のエフェクトは、直列に接続されているエフェクト1 (FX1)と2 (FX2)の2つで構成されています。

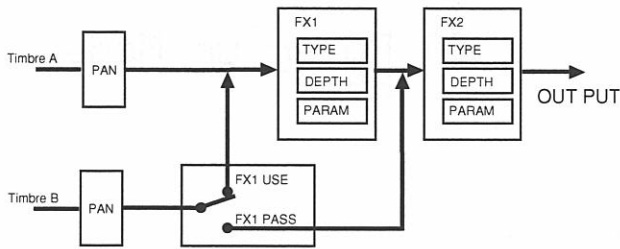
エフェクト1では12種類、エフェクト2では11種類のエフェクトを選ぶことができます。

エフェクトの種類やパラメータはプログラムごとに設定できます。

PERFORMANCEモードのティンバーA、Bを使用して同時に2つのプログラムで発音させるときは、ティンバーAのプログラムのエフェクト設定で動作し、ティンバーBは、エフェクト1の前と後のどちらから入力させるか(エフェクト・ルート)を選びます。

エフェクト・ルートはパフォーマンスごとに設定できます。

PERFORMANCE MODE



PERFORMANCEモード時のエフェクト・ルート画面

ティンバーBがエフェクト1、2両方を通る時の表示 (FX1 USE)

```
08 TA TimbA--+FX1--▶
    TimbB-^
```

ティンバーBがエフェクト2だけを通る時の表示 (FX1 PASS)


```
08 TA TimbA---FX1-+▶
    TimbB-----^
```

 使用する音色やエフェクトによっては、出力音が歪む場合があります。この場合はPROGRAM EDITモードのページ2“LEVEL”や、エフェクトのパラメータ“Effect Depth”、“Trim”等を調整してください。

●【FX ON/OFF】キー

【FX ON/OFF】キーでエフェクト1と2を同時にオン/オフすることができます。

エフェクトタイプに“NO EFFECT”を選んでいるときに、キーをオン/オフをすることはできますが、オンでもエフェクトはかかりません。

 3. Stereo Delay、4. Stereo Chorus、9. Auto Panのエフェクトは、オフにしてもイコライザー (EQ Lo, EQ Hi) の設定は有効です。

●ダイナミックモジュレーション

エフェクトの8.Rotary Speakerと10.Wahでは、エフェクト自体にモジュレーションをかけることができます。

モジュレーションの速さや、カットオフ周波数など特定のエフェクト・パラメータを、演奏中にコントロールでき、演奏表現に幅をもたせることができます。

コントロールするためのモジュレーション・ソースは、“Damper #64”、“Amp EG”、“Ctrl #12”、“Ctrl #13”、“JS(+Y) #01”、“JS(-Y) #02”、“AfterTouch”から選べます。

0. No Effect

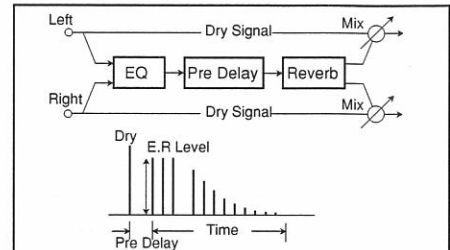
エフェクトを使用しないときに選びます。

1. Reverb

ホールなどの残響をシミュレートすることによって、それぞれの音色に音場感を与えるエフェクトです。中位のサイズのホール内でのリバーブと、ナチュラルな音響感が得られます。

設定パラメータ

パラメータ名		可変範囲	初期値
Time	残響音が減衰する時間	0.2~9.9sec	(2.3)
Hi Damp	高音域の減衰量	0~99%	(31)
Pre Dly	ダイレクト音から初期反射までの時間	0~200ms	(060)
E.R	初期反射音のレベル	0~99	(62)
EQ Lo	低音域のカット/ブースト量	-12~+12dB	(-03)
EQ Hi	高音域のカット/ブースト量	-12~+12dB	(-01)
Effect Depth	エフェクトのバランス	DRY~FX	(80:20)



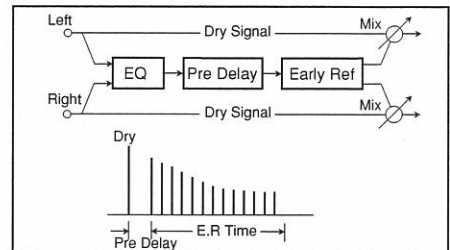
2. Early Reflection

音場の音質を決める上で重要な初期反射音を、残響音より取り出したエフェクトです。

アーリー・リフレクション・タイムを任意に設定することにより、音に厚みを加えたり、エコー的な反射音の効果を加えるなど、幅広い効果を得ることができます。

設定パラメータ

パラメータ名		可変範囲	初期値
E.R Time	初期反射の時間(10ms毎)	100~800ms	(160)
Pre Delay	ダイレクト音から初期反射までの時間	0~200ms	(000)
EQ Lo	低音域のカット/ブースト量	-12~+12dB	(-04)
EQ Hi	高音域のカット/ブースト量	-12~+12dB	(-06)
Effect Depth	エフェクトのバランス	DRY~FX	(75:25)



3. Stereo Delay

左右のチャンネルに、独立にデレイ・タイムが設定できるフィードバックのついたステレオ・デレイです。

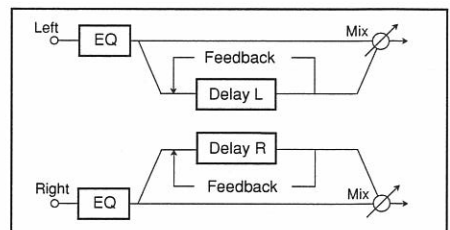
また、ハイ・ダンプの設定により、リピート音に自然な減衰感を加えることができます。



Effect Depthは、“DRY”にしてもイコライザー(EQ Lo, EQ Hi)の設定は有効です。

設定パラメータ

パラメータ名		可変範囲	初期値
Time L	左チャンネルのデレイ・タイム	0~500ms	(480)
Time R	右チャンネルのデレイ・タイム	0~500ms	(290)
FB	エフェクトにフィードバックされる量 -で逆位相	-99~+99%	(+60)
Hi.Damp	高音域の減衰量	0~99%	(10)
EQ Lo	低音域のカット/ブースト量	-12~+12dB	(+00)
EQ Hi	高音域のカット/ブースト量	-12~+12dB	(+00)
Effect Depth	エフェクトのバランス	DRY~FX	(80:20)



4. Stereo Chorus

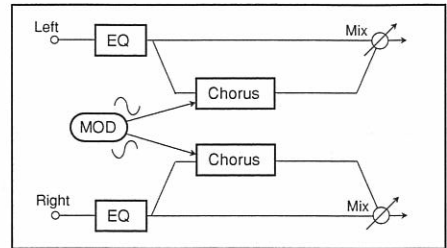
2つのコーラス・ブロックを組み合わせ、ステレオ・タイプにしたエフェクトです。

右チャンネルのモジュレーションは、左チャンネルのモジュレーションと位相が逆になっています。ピアノ、ストリングスなど、どのような音色に対しても、自然な広がり感、厚み感を得ることができます。

 Effect Depthは、“DRY”にしてもイコライザー (EQ Lo, EQ Hi) の設定は有効です。

設定パラメータ

パラメータ名		可変範囲	初期値
D.Time	デレイ・タイム	0~200ms	(010)
LFO	変調波形の選択	SIN, TRI	(TRI)
Mod	変調の深さ	0~99	(70)
Mod SP	変調のスピード	0.03~30Hz	(0.33)
EQ Lo	低音域のカット/ブースト量	-12~+12dB	(+00)
EQ Hi	高音域のカット/ブースト量	-12~+12dB	(+00)
Effect Depth	エフェクトのバランス	DRY~FX	(50:50)

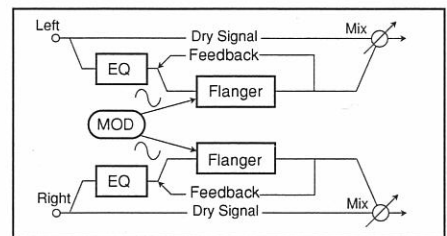


5. Stereo Flanger

コーラス・エフェクトにフィードバックを加えたエフェクトで、左右のチャンネルに同位相のモジュレーションがかかります。倍音を多く含んだ音に使用すると、うねり効果に加え、音色が音程感を持ったような強烈な音作りができます。

設定パラメータ

パラメータ名		可変範囲	初期値
D.Time	デレイ・タイム	0~20.0ms	(00.3)
Res	出力信号がインプットに フィードバックされる量 -値で逆位相	-99~+99%	(+80)
Mod	変調の深さ	0~99	(50)
Mod Speed	変調のスピード	1~99	(20)
EQ Lo	低音域のカット/ブースト量	-12~+12dB	(+00)
EQ Hi	高音域のカット/ブースト量	-12~+12dB	(+00)
Effect Depth	エフェクトのバランス	DRY~FX	(50:50)



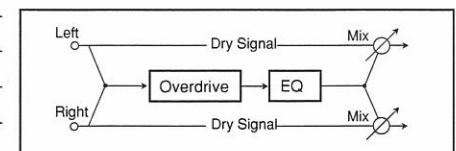
6. Overdrive

スムーズなオーバードライブをかけます。

バンドブースト・フィルターの中心周波数 (Hot Spot) とゲイン (Res) により、多彩なオーバードライブ・トーンが得られます。

設定パラメータ

パラメータ名		可変範囲	初期値
Drive	オーバードライブの量	1~111	(065)
Res	フィルターのゲイン	0~99	(37)
Hot Spot	フィルターの中心周波数	0~99	(20)
Level	エフェクトの出力レベル	0~99	(12)
EQ Lo	低音域のカット/ブースト量	-12~+12dB	(+06)
EQ Hi	高音域のカット/ブースト量	-12~+12dB	(+03)
Effect Depth	エフェクトのバランス	DRY~FX	(FX)



7. Stereo Phaser

ステレオ・フェイズ・シフターです。

コーラスやフランジャーがディレイ・タイムを変調してうねり効果を得るのに対して、フェイザーでは入力信号の位相を変調してうねり効果を得るため、コーラスやフランジャーとは異なった効果が得られます。

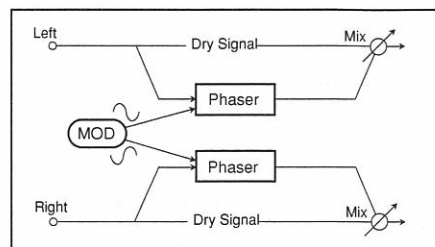
エレピ系やベース系などに使用すると効果的です。

“Effect Depth”を50:50にしたときに、最も高い効果が得られます。

右チャンネルと左チャンネルのモジュレーションの位相が逆になっているので、広がりのあるフェイズ効果が得られます。

設定パラメータ

パラメータ名		可変範囲	初期値
Manual	フェイズ・シフト効果のかかる 中心周波数	0~99	(95)
Mod	フェイズ・シフト変調効果の深さ	0~99	(92)
Mod SP	変調のスピード	0.03~30Hz	(0.93)
FB	エフェクトにフィードバックされる量 -値で逆位相	-99~+99%	(-70)
LFO	変調波形の選択	SIN, TRI	(SIN)
Effect Depth	エフェクトのバランス	DRY~FX	(50:50)



8. Rotary Speaker

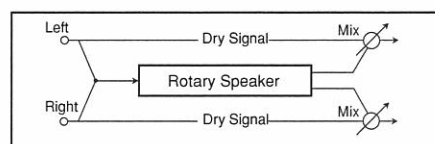
オルガン・サウンドでポピュラーなロータリー・スピーカーの効果をシミュレートしたエフェクトです。

ロータリー・スピーカーのローター側とホーン側の回転効果を、独立したLFOによってシミュレートしています。

スローとファーストのスピード切り替えを、“Src”で選んだコントローラで行えます。その際、回転スピードは、コントローラを動かす速さには関係無く、“Acceleration”で設定した速度に従って変わっていきます。

設定パラメータ

パラメータ名		可変範囲	初期値
Src	コントロール・ソースの選択	NONE~AfterTouch	(Ctrl #12)
Vibrato Depth	ビブラート効果の深さ	0~15	(06)
Acceleration	スピードを切り替えるときに かかる時間	0~15	(12)
SpeedSlow	スロー回転側のスピード	1~99	(25)
SpeedFast	ファースト回転側のスピード	1~99	(70)
Effect Depth	エフェクトのバランス	DRY~FX	(34:66)



9. Auto Pan

2つのトレモロ・ブロックを組み合わせ、ステレオ・タイプにしたエフェクトです。

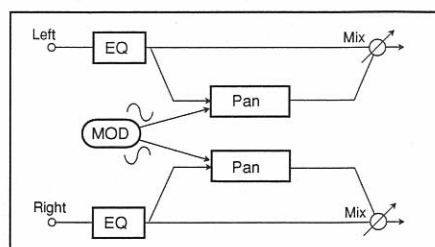
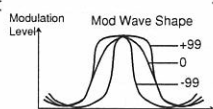
2つのトレモロ・ブロックに対しそれぞれ逆位相の変調がかかるため、音像がステレオでパンニングしているような効果が得られます。



Effect Depthは、“DRY”にしてもイコライザー (EQ Lo, EQ Hi) の設定は有効です。

設定パラメータ

パラメータ名		可変範囲	初期値
LFO	変調波形の選択	SIN, TRI	(SIN)
ModShape	変調波形の微調整	-99~+99%	(+78)
Mod	変調の深さ	0~99	(84)
Mod SP	変調のスピード	0.03~30Hz	(1.80)
EQ Lo	低音域のカット/ブースト量	-12~+12dB	(+00)
EQ Hi	高音域のカット/ブースト量	-12~+12dB	(+00)
Effect Depth	エフェクトのバランス	DRY~FX	(FX)



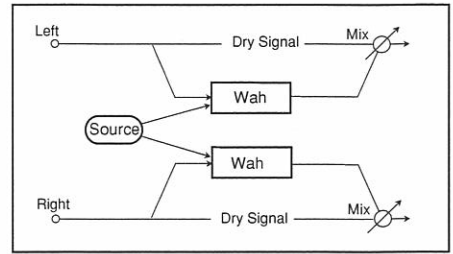
10. Wah

“Src”で選んだコントローラで、ワウワウ効果をコントロールできます。

“Src”を“Amp EG”に設定すればオート・ワウ(タッチ・ワウ)効果が得られます。

設定パラメータ

パラメータ名		可変範囲	初期値
Src	コントロール・ソースの選択	NONE~AfterTouch	(Amp EG)
I(Intensity)	中心周波数のスイープ量	-15~+15	(+15)
Freq	フィルターの中心周波数	00~99	(00)
Peak Gain	フィルターのバンド・ピークゲイン	-12~+12	(08)
Peak Width	フィルターのバンド幅	00~99	(95)
Effect Depth	エフェクトのバランス	DRY~FX	(FX)



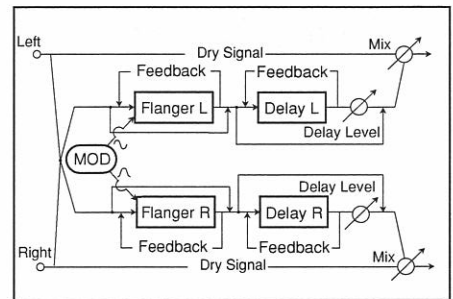
11. Flanger-Delay

位相が90度ずれたLFOで、モジュレーションをかけるモノラル入力/ステレオ出力のフランジャーに、ステレオ・デレイがかかります。

フランジャー、デレイそれぞれにフィードバックを設定できます。

設定パラメータ

パラメータ名		可変範囲	初期値
Fln. DT	フランジャーのデレイ・タイム	0~50ms	(00)
FB	フランジャーにフィードバックされる量 -値で逆位相	-99~+99%	(-80)
Fln. Mod	フランジャーの変調の深さ	0~99	(50)
Mod SP	フランジャーの変調のスピード	1~99	(10)
Dly. DT	デレイ・タイム	0~450ms	(400)
FB	デレイにフィードバックされる量 -値で逆位相	-99~+99%	(+20)
Delay Level	デレイのレベル	0~99	(25)
Effect Depth	エフェクトのバランス	DRY~FX	(FX)



12. Hyper Enhancer(FX1でのみ使用可能)

ステレオのエンハンサーです。

Dry音に対して低音、高音の成分をそれぞれ独立に加えることができます。

一般的なイコライザーと違い原音はそのままに、必要な低音、高音を加えるという方式のため、非常にクリアで存在感のある音が得られます。

低音の量感を上げ、アタック音の輪郭をはっきりさせるなど特にピアノに効果的なエフェクトです。



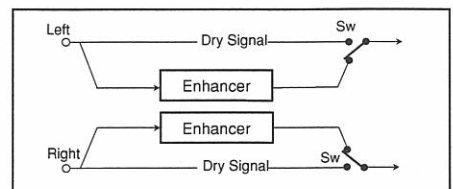
このエフェクタを使用しているときは、PROGRAM EDITモードのページ“Effect1 Depth”の値は“DRY”か“FX”しか設定できません。



音色によっては、“Lo Blend”、“Hi Blend”の値を大きくした時、出力音が歪む場合があります。この場合は、“Trim”を調整してください。

設定パラメータ

パラメータ名		可変範囲	初期値
Trim	入力レベル	0~100	(075)
Lo Freq	低域のカットオフ周波数	1~70	(15)
Lo Blend	低域のブレンド(ブースト)量	0~100	(030)
Hi Freq	高域のカットオフ周波数	1~40	(38)
Hi Blend	高域のブレンド(ブースト)	0~100	(043)
Effect Depth	エフェクトのスイッチ	DRY, FX	(FX)



MIDIについて

※文章中のCC#はControl Changeナンバー

1. MIDIチャンネルについて

テレビと同様で、送信側のチャンネルに受信側のチャンネルを合わせると、そのチャンネルのデータが受信できます。SG-RackはグローバルMIDIチャンネルに従って送受信します。

2. ノート・オン/オフについて

Note On [9n, kk, vv] (n: チャンネル, kk: ノート・ナンバー, vv: ベロシティ)を受信すると、プログラムやパフォーマンスが発音し、Note Off [8n, kk, vv] で発音が止まります。

ノート・ナンバーは音程を表わし、ノート・オン時のベロシティは音の強さを表わします。

ノート・オフ時のベロシティを送受信する機種はほとんどなく、SG-Rackも受信しません。SG-RackはグローバルMIDIチャンネルに一致するノート・オン/オフのみを受信します。

参考(音程:Note No.)C-1:00, C1:24, C2:36, C3:48, C4:60, C5:72, C6:84, C7:96, G9:127

3. プログラムを変える

Program Change[Cn, vv] (vv: プログラム・ナンバーで、128音色まで選択できる)を受信すると、音色(プログラム)を切り替えます。

PROGRAMモードや、PERFORMANCEモードのとき、

Program Changeを受信します。

Program Changeの プログラム・ナンバー	00~15	16~31	32~47	48~63
SG-Rackプログラム/ パフォーマンス・ナンバー	A1~A16	B1~B16	C1~C16	D1~D16

4. ダンパー(ホールド)・ペダルについて

CC#64:Hold [Bn, 40, vv] (vv: 値) で、ダンパー効果をコントロールできます。

vvが0 以下のときはオフ、1~79[4FH]のときはハーフダンプ、80 [50H] 以上のときはオンとして認識します。

5. ピッチベンドをかける

ベース等のプログラムでは、Pitch Bend [En, vv, vv] (vv, vv: 値の下位、値の上位、両方合わせて16384段階で値を表し、8192 [vv, vv=00H, 40H] のときがセンター値となる)を受信するとピッチベンド効果がかかります。

6. 音量を変える

CC#07:Volume [Bn, 07, vv] (vv: 値)を受信すると音量が変わります。

SG-Rackの音量は、Volumeの値と、CC#11:Expression [Bn, 0B, vv] (vv: 値) の値をかけあわせて設定されるので、Volumeの値を調整しても音量が大きくなるときや、音が出ないときは、値が127の ExpressionをSG-Rackに送信してください。

また、ユニバーサル・エクスクルーシブのMaster Volume(「20. システム・エクスクルーシブについて」参照)を用いても音量が変わります。

7. ビブラートをかける

ストリングス等の音色では、CC#01:Modulation 1 [Bn, 01, vv] (vv: 値)を受信すると、ビブラート効果がかかります。

8. 音の定位(パンポット)を変える

CC#10:Panpot [Bn, 0A, vv] (vv: 値、00でL、64でセンター、127でR)を受信すると音の定位が変わります。

ただし、ステレオ出力のプログラムでは、モノラルになります。

発音中にこのメッセージを受信した場合、そのときは変化せずに、次に新しく発音する音から定位が変わります。

9. エフェクト1の効果の深さを変える

CC#93:Eff 3 Depth [Bn, 5D, vv] (vv: 値)を受信すると、エフェクト1の深さが変わります。

10. エフェクト2の効果の深さを変える

CC#91:Eff 1 Depth [Bn, 5B, vv] (vv: 値)を受信すると、エフェクト2の深さが変わります。

11. エフェクトのダイナミック・モジュレーションについて

Rotary SpeakerやWahのエフェクトでは、選択されたモジュレーション・ソースに対応したMIDIメッセージを受信するとエフェクトをコントロールできます。

CC#64:Hold [Bn,40, vv] (vv: 値) ----- Damper #64
 CC#12:FX Control 1 [Bn, 0C, vv] (vv: 値)----- Ctrl #12
 CC#13:FX Control 2 [Bn, 0D, vv] (vv: 値)----- Ctrl #13
 CC#01:Modulation 1 [Bn, 01, vv] (vv: 値) ----- JS(+Y) #01
 CC#02:Modulation 2 [Bn, 02, vv] (vv: 値) ----- JS(-Y) #02
 After Touch [Dn, vv] (vv: 値) ----- AfterTouch

12. 音色(トーン)を変える

CC#74:Brightness [Bn, 4A, vv] (vv: 値) メッセージを受信すると、音色が変化します。
 vvが64 [40H] のとき、トーンの変化はなく、それより下の値では暗く、それより上の値では明るくなります。

13. 音の立ち上がり(アタック・タイム)を変える

CC#73:Attack Time [Bn, 49, vv] (vv: 値)を受信すると、アタック・タイムが変化します。
 vvが64 [40H] のときはアタック・タイムの変化はなく、それより下の値では速く、それより上の値では遅くなります。

14. 音の減衰の仕方(ディケイ・タイム)を変える

CC#75:Decay Time [Bn, 4B, vv] (vv: 値)を受信すると、ディケイ・タイムが変化します。
 vvが64 [40H] のとき、ディケイ・タイムの変化はなく、それより下の値では速く、それより上の値で遅くなります。

15. RPNでのエディットについて

RPN (Registered Parameter No.) は、メーカー等の枠を超えて共通の設定をするためのメッセージです。
 そして、メーカーが独自に使用できるメッセージには、NRPN (Non RPN) やエクスクルーシブがあります。
 エディットするときは、まず、CC#100:RPN (LSB) [Bn, 64, rr] とCC#101:RPN (MSB) [Bn, 65, mm] (rr, mm: パラメータ No. の下位と上位) でパラメータを選びます。
 その後、CC#06:D.Entry (MSB) [Bn, 06, mm] とCC#38:D.Entry (LSB) [Bn, 26, vv] (mm, vv: 値の上位と下位、両方で16384段階) で値を選びます。
 さらに、CC#96:Increment [Bn, 60, 00]やCC#97:Decrement [Bn, 61, 00] (値は00に固定) で、値を1つずつ増減させることもできます。
 SG-Rackでは、16の項目のRPNが受信できます。

16. チューニングをする

RPN Fine TuneでSG-Rackのマスター・チューンを設定できます。
 まず、RPNで01を選びます。つまり [Bn, 64, 01, 65, 00] (コントロール・チェンジ#100に01、#101に00)を受信します。
 そして、データ・エンターキーで値を設定します。
 つまり [Bn, 06, mm, 26, vv] (コントロール・チェンジ#06と38)を受信します。
 値が8192 [mm, vv=40H, 00H]のときはセンター、0のときは-100セント、16383 [mm, vv=7FH, 7FH]のときは+100セントとなります。

17. 音が消えないとき

外部機器のトラブルで、SG-Rackの発音中の音が止まらなくなったときは、SG-Rackのパネルの【RESET】キーを押したり、モードを切り替えたりして音を止めます。

また、MIDIケーブルを抜くという方法もあります。

接続しているMIDI機器が、アクティブ・センシング [FE] というメッセージを定期的送信している場合、それを受信したSG-Rackは、外部にMIDI送信機器があることを認知します。

そして、一定時間内に再びMIDIメッセージを受信されなければ、回路が切断されたと判断し、MIDIで発音していた音を消します。

18. あるチャンネルのすべての音を消すとき

CC#123:All Notes Off [Bn, 7B, 00] (コントロール・チェンジ#123に00)を受信すると、そのチャンネルで発音中のすべての音をオフにします。

CC#120:All Sound Off [Bn, 78, 00] (コントロール・チェンジ#120に00)でも、そのチャンネルで発音中のすべての音が消えます。オール・ノート・オフでは音の余韻が残るのに対し、オール・サウンド・オフではただちに消えます。

ただしこれらのメッセージは緊急のとき等に使用するもので、演奏中などに使用するものではありません。

19. あるチャンネルのすべてのコントローラーをリセットするとき

CC#121:Reset All Controlllers [Bn, 79, 00] (コントロール・チェンジ#121に00)のメッセージを受信すると、そのチャンネルで動作中のすべてのコントローラーの値がリセットします。

20. システム・エクスクルーシブについて

使用法はメーカーによって自由なため、このメッセージは主に機種独特のパラメータを持つ音色データやエディット・データの送受信に使用されます。

SG-Rackのシステム・エクスクルーシブ・メッセージのフォーマットは、[F0, 42, 3n, 4B, ff, …, F7] (n: グローバルMIDIチャンネル、ff: ファンクション・コード(メッセージの種類))です。

ただし、システム・エクスクルーシブのなかには、公的に使用法が統一されているものもあり、これをユニバーサル・システム・エクスクルーシブといいます。

SG-Rackは、数種類のユニバーサル・システム・エクスクルーシブのうち、Inquiry Message Request、Inquiry Message Reply、Master Volumeの3つに対応しています。

- ・ Inquiry Message Request [F0, 7E, nn, 06, 01, F7]を受信すると、「私はコルグのSG-Rackで、システムのバージョンは…です」という内容のInquiry Message Reply [F0, 7E, nn, 06, 02, (9バイト), F7]を送信します。
- ・ Master Volume [F0, 7F, nn, 04, 01, vv, mm, F7] (vv: 値の下位、mm: 値の上位、両方合わせて16384段階)の受信によって音量を調整できます。

21. 音色等の設定データを送受信する(データ・ダンプについて)

グローバル、プログラムやパフォーマンスの各データは、MIDIエクスクルーシブ・データとして送信し、外部機器に記憶させることができます。

送信は、GLOBALモードのページ8“MIDI Data Dump”で行います。

また、これらのデータ・ダンプに対するダンプ・リクエストを受信することによっても送信します。

外部機器からのダンプ・データを受信すると、グローバル、プログラムやパフォーマンスの設定が書き替わります。

この送受信は、グローバルMIDIチャンネルで行います。

各ダンプデータの内容は《SG-Rack MIDI IMPLEMENTATION》に記載しています。

MIDI IMPLEMENTATIONの配布についてはコルグ・インフォメーションへお問い合わせください。

※SG-RackとSGproXはダンプ・データに互換性がありますが、SGproXの下記のデータは無視します。

- ・ グローバルの "Local", "Aftertouch Filter", "Damper Polarity", "Assignable SW Polarity", "Aftertouch Curve" 及びアサインナブル・コントローラの各設定。
 - ・ パフォーマンスのティンバー1~8の各設定、アサインナブル・コントローラの各設定。
- また、エフェクト("Rotary speaker", "Wah")のダイナミック・モジュレーション・ソースがアサインナブル・コントローラ("AW1"~ "AS")のときは、"NONE" になります。

故障とお思いになる前に

POWERスイッチを押しても電源が入らない！

- 電源コードがコンセントと本体のインレットソケットに接続されていますか？

音が出ない！

- アンプ、ミキサー、ヘッドホンは正しく端子に接続されていますか？
- アンプ、ミキサーの電源がONで正しく設定されていますか？
- 本機のボリュームは上がっていますか？
- 外部機器が送信するMIDIメッセージのチャンネルと本機のグローバルMIDIチャンネルの設定 (GLOBALモードで行います) が合っていますか？ (P.26)

MIDIでコントロールできない！

- MIDIケーブルは正しく接続されていますか？
- 送信機器と同じチャンネルでMIDIデータを受信するように設定されていますか？

エクスクルーシブ・データを受信しない！

- グローバルMIDIチャンネル設定はありますか？ (P.26)
- GLOBALモードのエクスクルーシブ・フィルターが“ENA”になっていますか？ (P.27)
- メモリー・プロテクトの設定が“OFF”になっていますか？ (P.27)

プログラムや、パフォーマンスの書き込み(ライト)ができない！

- メモリー・プロテクトの設定 (GLOBALモードで行います) が“OFF”になっていますか？ (P.27)

エラー・メッセージ

エラー・メッセージ	エラーの内容
Battery Low	内蔵バッテリーの電圧が下がっています。弊社の営業技術課または最寄の販売店にお問い合わせください。
Memory Protected	書き込みなどを行おうとしたプログラムのメモリーに対して、プロテクトが“ON”になっています (GLOBALモードで設定を“OFF”にします)。
Copy to Self	ティンバーコピーの設定がコピー元と、コピー先に同じものが指定されています。

仕様

方式	AIスクエア・シンセシス・システム(フルデジタル・プロセッシング)
音源部	64ボイス、64オシレータ(モノラル・プログラム時) 32ボイス、64オシレータ(ステレオ・プログラム時)
波形メモリー	PCM 24MBytes
プログラム数	64
パフォーマンス数	64
エフェクター部	デジタル・マルチエフェクト×2
エフェクト種類	エフェクト1(12)、エフェクト2(11)
アウトプット	L/MONO、R、PHONES(標準ジャック)
MIDI端子	IN、OUT、THRU
ディスプレイ	20×2LCD(バックライト付き)
電源定格	100V
消費電力	10W
外形寸法	482(W)×264(D)×45(H)mm
重量	2.8kg
付属品	ACコード、ラックマウント用ねじ、絶縁ブッシュ、絶縁ワッシャー

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

プログラム・ネーム・リスト

*モノラル・プログラム

A01	Concert	B01	Bright	C01	Classic	D01	Dynamic
A02	Studio	B02	Rock Piano	C02	Jazz Piano	D02	Ballad
A03	* DancePiano	B03	* Chorused	C03	Mix Piano	D03	StagePiano
A04	Dyna-Stage	B04	Classic EP	C04	* Stage Bell	D04	* Stage Time
A05	* Wurly EP	B05	* Dyno Bell	C05	* FM EP 2	D05	* FM EP 3
A06	FM EP 1	B06	* Wave EP 1	C06	Motion EP	D06	* Wave EP 2
A07	Piano & EP	B07	PF&Strings	C07	MIDI Grand	D07	Power Keys
A08	* Funkamatic	B08	FM&Analog	C08	EP&Strings	D08	* EP Magic
A09	SGX Organ	B09	* Velo "B"	C09	* Perc Organ	D09	* Full Organ
A10	* R&B Organ	B10	* CX-3 Organ	C10	* Gospel Org	D10	Pipe Organ
A11	* Clav	B11	PhaserClav	C11	Mutronics	D11	Clavitar
A12	Vibraphone	B12	* Bellphonic	C12	Crystalline	D12	BellString
A13	TheStrings	B13	Symphonic	C13	PadStrings	D13	StringsL&R
A14	WhisperVox	B14	Slow Waves	C14	BreathyVox	D14	Voices
A15	SynthFlute	B15	SynthBrass	C15	Synth Air	D15	Synth Horn
A16	* Acoustic	B16	* Fretless	C16	* FingerBass	D16	* Synth Bass

パフォーマンス・ネーム・リスト

PERFORMANCE.NAME	PERFORMANCE.NAME	PERFORMANCE.NAME	PERFORMANCE.NAME
Timbre A	Timbre A	Timbre A	Timbre A
Timbre B	Timbre B	Timbre B	Timbre B
A01	PianoLayer B03:Chorused C07:MIDI Grand	B01	FMEP&Piano A06:FM EP 1 A01:Concert
A02	PF&Strings B08:FM&Analog B07:PF&Strings	B02	PFHornPad B07:PF&Strings D15:Synth Horn
A03	A.Bass/PF A16:Acoustic A02:Studio	B03	BS/PF&Pad B07:PF&Strings B16:Fretless
A04	EP Layer A06:FM EP 1 D08:EP Magic	B04	Ballad EP A06:FM EP 1 D05:FM EP 3
A05	EP&Strings B08:FM&Analog A04:Dyna-Stage	B05	EP&BellPad B08:FM&Analog B12:Bellphonic
A06	BS/FM&Pad B08:FM&Analog C16:FingerBass	B06	BS/StageEP B05:Dyno Bell C16:FingerBass
A07	PowerLayer B02:Rock Piano C07:MIDI Grand	B07	Piano & EP A06:FM EP 1 D07:Power Keys
A08	Crystal EP C12:Crystalline B06:Wave EP 1	B08	Modern EP B06:Wave EP 1 B04:Classic EP
A09	OrganSplit B10:CX-3 Organ B09:Velo "B"	B09	BS/Organ C10:Gospel Org C16:FingerBass
A10	BrassLayer C07:MIDI Grand B15:SynthBrass	B10	PowerBrass D15:Synth Horn B15:SynthBrass
A11	FlangeFunk A08:Funkamatic B11:PhaserClav	B11	StereoClav B11:PhaserClav A11:Clav
A12	ABass/Vibe A12:Vibraphone A16:Acoustic	B12	BellChimes B12:Bellphonic C15:Synth Air
A13	SGXStrings D13:StringsL&R B13:Symphonic	B13	Symphony D13:StringsL&R C13:PadStrings
A14	Fifth Wave B14:Slow Waves B14:Slow Waves	B14	Modern Pad A14:WhisperVox B14:Slow Waves
A15	Ensemble B13:Symphonic D15:Synth Horn	B15	Bows&Brass B13:Symphonic B15:SynthBrass
A16	PIANO-SNGL A01:Concert OFF	B16	PD/LD-SPLT B14:Slow Waves D15:Synth Horn
C01	PowerWaves C06:Motion EP D07:Power Keys	C01	PowerWaves C06:Motion EP D07:Power Keys
C02	PFBrassPad B07:PF&Strings B15:SynthBrass	C02	PFBrassPad B07:PF&Strings B15:SynthBrass
C03	BS/PFLayer A07:Piano & EP B16:Fretless	C03	BS/PFLayer A07:Piano & EP B16:Fretless
C04	Whisper EP A06:FM EP 1 A14:WhisperVox	C04	Whisper EP A06:FM EP 1 A14:WhisperVox
C05	EPHornPad B08:FM&Analog D15:Synth Horn	C05	EPHornPad B08:FM&Analog D15:Synth Horn
C06	EP/SynHorn D15:Synth Horn A04:Dyna-Stage	C06	EP/SynHorn D15:Synth Horn A04:Dyna-Stage
C07	LayerGrand C07:MIDI Grand C06:Motion EP	C07	LayerGrand C07:MIDI Grand C06:Motion EP
C08	Flange EP A08:Funkamatic D06:Wave	C08	Flange EP A08:Funkamatic D06:Wave
C09	SynthOrgan B10:CX-3 Organ D15:Synth Horn	C09	SynthOrgan B10:CX-3 Organ D15:Synth Horn
C10	Air Horns A15:SynthFlute D15:Synth Horn	C10	Air Horns A15:SynthFlute D15:Synth Horn
C11	Phat Clav D16:Synth Bass A11:Clav	C11	Phat Clav D16:Synth Bass A11:Clav
C12	BellString B12:Bellphonic D12:BellString	C12	BellString B12:Bellphonic D12:BellString
C13	Divisi B13:Symphonic D13:StringsL&R	C13	Divisi B13:Symphonic D13:StringsL&R
C14	Phaser Pad B14:Slow Waves C14:BreathyVox	C14	Phaser Pad B14:Slow Waves C14:BreathyVox
C15	StringPizz B13:Symphonic A16:Acoustic	C15	StringPizz B13:Symphonic A16:Acoustic
C16	SFLUTE-LYR A15:SynthFlute C15:Synth Air	C16	SFLUTE-LYR A15:SynthFlute C15:Synth Air
D01	PF Air Pad C07:MIDI Grand C15:Synth Air	D01	PF Air Pad C07:MIDI Grand C15:Synth Air
D02	PF&Voices B07:PF&Strings D14:Voices	D02	PF&Voices B07:PF&Strings D14:Voices
D03	P&O-SPLIT A09:SGX Organ A01:Concert	D03	P&O-SPLIT A09:SGX Organ A01:Concert
D04	Metalic EP A06:FM EP 1 B12:Bellphonic	D04	Metalic EP A06:FM EP 1 B12:Bellphonic
D05	EP&Analog B08:FM&Analog A06:FM EP 1	D05	EP&Analog B08:FM&Analog A06:FM EP 1
D06	BS/EP&Pad C08:EP&Strings B16:Fretless	D06	BS/EP&Pad C08:EP&Strings B16:Fretless
D07	MondoLayer B07:PF&Strings C15:Synth Air	D07	MondoLayer B07:PF&Strings C15:Synth Air
D08	Wurly EFX B14:Slow Waves A05:Wurly EP	D08	Wurly EFX B14:Slow Waves A05:Wurly EP
D09	Full Pipes D10:Pipe Organ D09:Full Organ	D09	Full Pipes D10:Pipe Organ D09:Full Organ
D10	Air Brass B15:SynthBrass C15:Synth Air	D10	Air Brass B15:SynthBrass C15:Synth Air
D11	BellGuitar B12:Bellphonic D11:Clavitar	D11	BellGuitar B12:Bellphonic D11:Clavitar
D12	Air Bells B12:Bellphonic B14:Slow Waves	D12	Air Bells B12:Bellphonic B14:Slow Waves
D13	AirStrings D13:StringsL&R C15:Synth Air	D13	AirStrings D13:StringsL&R C15:Synth Air
D14	VoxVoices D14:Voices C14:BreathyVox	D14	VoxVoices D14:Voices C14:BreathyVox
D15	Orchestral B13:Symphonic A15:SynthFlute	D15	Orchestral B13:Symphonic A15:SynthFlute
D16	BASS-OCTAV D16:Synth Bass D16:Synth Bass	D16	BASS-OCTAV D16:Synth Bass D16:Synth Bass

パラメータ・リスト

PROGRAM EDIT	PAGE	PARAMETER	RANGE
	1	Brightness	-99 ~ +99
	2	Level	-99 ~ +99
	3	Attack	-99 ~ +99
	4	Decay	-99 ~ +99
	5	Release	-99 ~ +99
		Damp Mode	PIANO, NORMAL
		Hi	PIANO, NORMAL
	6	Key Touch	-99 ~ +99
	7	Effect1 Depth	DRY, 99:01 ~ 01:99, FX
	8	Effect2 Depth	DRY, 99:01 ~ 01:99, FX
	9	FX1 TYPE	00 ~ 12
	10	FX1Parameter	
	11	FX2 TYPE	00 ~ 11
	12	FX2 Parameter	
	13	Scale(type)	Equal Temp ~ Stretch (7type)
		Scale(key)	C ~ B
		P. Bend Range	-12 ~ +12
	14	Preload	A01 ~ D16
	15	Rename	
	16	Prog Write	

PERFORMANCE EDIT	PAGE	PARAMETER	RANGE
	1	Timbre Select	A, B
	2	Program	A01 ~ D16
	3	Timb On/Off	ON, OFF
	4	Level	0 ~ 127
	5	Pitch(Trans)	-12 ~ +12
		Pitch(Tune)	-50 ~ +50
	6	Panpot	L ~ R, PROGRAM
	7	Key Zone	C-1 ~ G9
		Vel Zone	C-1 ~ G9
	8	Filter(Damp/Sost)	E, D
		Filter(Pitch Bend)	E, D
		Filter(Mod Wheel)	E, D
		Filter(Volume)	E, D
		Filter(Expression)	E, D
		Filter(AfterTouch)	E, D
		Filter(Panpot)	E, D
		Filter(Tone Chara)	E, D
		FX Route	FX1 USE, FX1 PASS
	9	Velocity Curve(Fig)	1 ~ 4, GLOBAL
		Velocity Curve(P)	1 ~ 127
		Velocity Curve(f)	1 ~ 150
	10	TIMB COPY	
	11	Macro	LAYER, SPLIT, VEL SW, GM, RESET
	12	Preload	A01 ~ D16
	13	Rename	
	14	Perf Write	

GLOBAL	PAGE	PARAMETER	RANGE
	1	Master Tune	-50 ~ +50
	2	Transpose	-12 ~ +12
	3	Global Channel	1 ~ 16
	4	Velocity Curve(Fig)	1 ~ 4
		Velocity Curve(P)	1 ~ 127
		Velocity Curve(f)	1 ~ 150
	5	MIDI Exclusive	DIS, ENA
	6	Prog Mem Protect	OFF, ON
		Perf Mem Protect	OFF, ON
	7	Preload	ALL PROG, ALL PERF, GLOBAL, ALL
	8	MIDI Data Dump	ALL PROG, ALL PERF, GLOBAL, ALL
	9	Page Memory	OFF, ON
		Power On Mode	RESET, MEMORIZE
	10	System Name	

アフターサービス

- 製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。
 1. 消耗部品（電池など）を交換する場合。
 2. 輸送および移動時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
 3. 天災（火災等）によって生じた故障。
 4. 故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
 5. コルグ・サービスステーションおよびコルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
 6. 保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
 7. 保証期間が切れている場合。
 8. 日本国外で使用される場合。
- 当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3ヵ月以内に限り無償修理いたします。また仕様変更に関しては有償になりますのでご了承ください。
- お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品取扱店、またはコルグ・インフォメーションまでお問い合わせください。
- 保証期間が切れますと修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品（電子回路など）は通常8年間を基準に保有しております。ただし外装部品（パネルなど）の修理は、類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。
- その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

▼▲▼▲▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーション	〒168 東京都杉並区下高井戸 1-15-12	☎(03)5376-5022
東京営業所	〒168 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎(03)3323-5241
名古屋営業所	〒466 名古屋市昭和区八事本町 100-51	☎(052)832-1419
大阪営業所	〒531 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川5番館7F	☎(06) 374-0691
福岡営業所	〒810 福岡市中央区白金 1-3-25 第2池田ビル1F	☎(092)531-0166

- 修理等のお問い合わせは最寄りの各営業所、または下記までお問い合わせください。
営業技術課 〒168 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 ☎(03)3309-7004

<WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

(この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。)